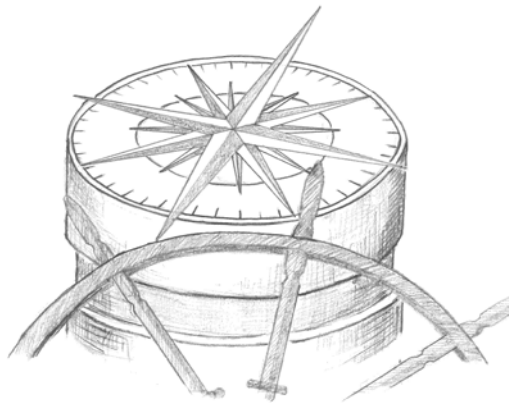


平成 2 6 年度
全国学力・学習状況調査
始良・伊佐地区結果分析



平成 2 6 年 1 0 月
始良・伊佐教育事務所

目 次

始良・伊佐地区の児童生徒の学力・学習状況等の実態及び今後の取組

1	本地区の学力に関する実態（教科に関する調査から）	1
2	本地区の児童生徒の学習状況等に関する実態（児童生徒質問紙から）	2
3	本地区の学校における授業等に関する実態（学校質問紙・児童生徒質問紙から）	2
4	本地区における学力向上に関する方向性	3
5	県教育委員会および教育事務所における今後の取組	4
6	始良・伊佐の学力について（イメージ図）	5

【資料】全国・県・地区における正答数別分布

1	小学校の結果	6
2	中学校の結果	7

【資料】設問別調査結果

1	小学校国語A	8
2	小学校国語B	9
3	中学校国語A	10
4	中学校国語B	12
5	小学校算数A	13
6	小学校算数B	14
7	中学校数学A	15
8	中学校数学B	17

【資料】本地区の教科別正答数分布及び指導改善のポイント

1	小学校国語	18
2	中学校国語	19
3	小学校算数	20
4	中学校数学	21

【資料】学習状況調査等分析資料

1	本地区の学習状況等に関する実態 児童生徒質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった項目から	22
2	本地区の学校における授業等に関する実態 学校質問紙調査と児童生徒質問紙調査の回答結果の比較から	27
	学校質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった項目から	29
	児童生徒質問紙回答結果と学校質問紙回答結果の相関関係等から	31

【資料】県教育委員会及び教育事務所の取組

1	かごしま学びチャレンジ推進事業の推進	32
2	平成26年度始良・伊佐地区教科研究会実施状況及び計画	37

始良・伊佐地区の児童生徒の学力・学習状況等の実態及び今後の取組

1 本地区の学力に関する実態（教科に関する調査から）

(1) 各教科の平均正答率から

地区名 教育事務所等		鹿児島市	鹿児島 地区	南 薩 地区	北 薩 地区	始良・伊佐 地区	大隅 地区	熊 毛 地区	大 島 地区	県 平 均	本地区 対県比	全 国 平 均	本地区 対全国比	
小学校	国語	A	74.7	72.8	70.1	70.5	71.6	70.1	72.1	73.7	72.5	-0.9	72.9	-1.3
		B	58.3	53.9	53.1	53.3	54.9	52.6	55.4	51.7	55.2	-0.3	55.5	-0.6
	算数	A	80.5	79.9	76.1	77.9	78.2	75.9	79.0	77.1	78.5	-0.3	78.1	0.1
		B	58.3	55.0	53.4	53.3	55.5	51.8	55.5	51.9	55.3	0.2	58.2	-2.7

地区名 教育事務所等		鹿児島市	鹿児島 地区	南 薩 地区	北 薩 地区	始良・伊佐 地区	大隅 地区	熊 毛 地区	大 島 地区	県 平 均	本地区 対県比	全 国 平 均	本地区 対全国比	
中学校	国語	A	80.1	77.8	77.5	77.9	78.5	75.8	77.3	73.8	78.1	0.4	79.4	-0.9
		B	52.1	48.5	48.8	47.9	49.8	44.9	47.2	44.4	49.1	0.7	51.0	-1.2
	数学	A	68.3	65.6	65.1	64.7	66.2	62.9	62.8	59.0	65.5	0.7	67.4	-1.2
		B	60.6	58.7	58.7	58.4	59.2	55.8	55.3	52.0	58.4	0.8	59.8	-0.6

- 平均正答率からは、「知識」に関するA問題において、中学校数学Aを除き、7割超に達しており、基礎的・基本的事項については、一定の定着が図られていることがうかがえる。また「活用」に関するB問題についても、2.7ポイント差の算数B以外はいずれも全国平均から1.5ポイント未満となっていることから、全国と大きな差はないように見受けられる。
 - 小学校における学力は、算数Aで全国平均を、算数Bで県平均を僅かに上回ったが、それ以外の教科・種別において全国・県平均を下回っている。
 - これまで課題の大きかった中学校における学力は、全教科A問題、B問題ともに県平均を上回ったが、全国平均にはまだ届いていない。
- (2) 正答数分布グラフから 【P 6～7 参照】
- 正答数の分布グラフにおいて本地区と全国を比較すると、本地区においては、全ての教科・種別において上位層が少なく、中位層が多くなっていることが分かる。
 - 学習集団の大多数を占めている中位層の学力を引き上げることが、全体の学力向上につながる方策として有効であることが考えられる。
- (3) 設問別調査結果から 【P 8～21参照】
- 設問別調査結果からは、「根拠を明らかにして説明する力を要する問題」、「対象となる事象を関連付けて説明する力を要する問題」、「論理的思考を要する問題」、「目的に応じて文章をつくる力を要する問題」、「課題解決のために必要なデータを選び出す力を要する問題」における正答率が全国と比較すると低くなっていることが分かる。
 - 小学校国語では、「故事成語の意味や使い方の理解」「目的に応じて、話合いの観点を整理すること」、中学校国語では「書いた文章についての意見を交流し、文章を書き直すこと」「複数の資料から必要な情報を読み取ること」等の問題における全国平均正答率との差が大きい。
 - 小学校算数では、「目的に応じて、適切な表やグラフを選択したり表したりすること」、「与えられた情報を整理し、筋道立てて考え、表現すること」、中学校数学では「図形の性質を証明し、表現すること」、「仮定と結論を意識しながら考え、自分の考えを表現すること」等の問題における全国平均正答率との差が大きい。
 - 無回答率は、全教科・種別において、全国・県よりも低く、例えば、小学校国語Bの「二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く」問題等、全国的に無回答率が非常に高い問題に対しても、最後まであきらめず粘り強く取り組んだ姿勢がうかがえる。
- (4) 実態の要因として考えられること
- 「知識」に関する問題の定着が図られたのは、教員が児童生徒に対し、基礎的・基本的な知識や技能を習得させることを意識した授業に力を入れて取り組んだ成果として捉えられる。
 - 上位層が少なく、中位層が大多数を占めているのは、児童生徒に達成させようとする目標が「基礎的・基本的な知識や技能の習得」で留まり、「それらを活用する」レベルまで高まっていないということが要因であると考えられる。また、授業の内容については、児童生徒の学力をある一定のレベルまで高める授業にはなっているものの、「知的好奇心や探究心に支えられた主体的な学習」、「思考力・判断力・表現力等を駆使する授業」になりきれていないこともその要因として考えられる。その結果として、児童生徒の可能性を伸ばしきれていない実態につながっているものと考えられる。

2 本地区の児童生徒の学習状況等に関する実態（児童生徒質問紙から）

(1) 全体的な傾向

【P22～26参照】

学習状況等については、児童生徒の自己肯定感が高いこと、将来の夢や目標をしっかり持っていること、家庭学習の状況がよいこと、読書が好きで学校図書館の利用頻度が高いこと等、全体的に、真面目にコツコツと取り組む姿勢がうかがえる。一方、自分の考えや意見を発表することが得意でないと感じている児童生徒の割合が高いことが分かる。

(2) 全国との比較で特に差が大きかった項目

※ 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの回答の割合が全国と比較して差が大きかった項目（○は大きく上回ったもの、▲は大きく下回ったもの）

- 自分にはよいところがあると思いますか。
- 将来の夢や目標を持っていますか。
- 学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
- 学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。
- 家で、学校の宿題をしていますか。
- 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。
- 読書は好きですか。
- これまでに受けた授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されたと思いますか。
- ▲ 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。

3 本地区の学校における授業等に関する実態（学校質問紙・児童生徒質問紙から）

(1) 全体的な傾向

【P27～30参照】

学校質問紙調査からは、学習目標の提示がしっかりとなされていること、学習を振り返る活動を位置付けている割合が全国平均よりも高いこと、学校図書館の計画的な活用、一斉読書の時間の設定等が充実しており、全体的に、児童生徒同様に、教員も真面目に授業に取り組んでいる様子がうかがえる。

しかし、学校質問紙と児童生徒質問紙の回答を比較すると、例えば、「学習の振り返り」については教員が小・中ともにほぼ100%「行った」と回答しているにもかかわらず、小学校で約20%、中学校で約40%の児童生徒にその意識はなく、授業に対する教員と児童生徒の意識のずれが大きくなっている。

また、中学校においては、生徒の思考を深める発問等の工夫や言語活動の位置付けなどが、全国と比較すると低くなっている。

(2) 全国との比較で特に差が大きかった項目

※ 「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」などの回答の割合が全国と比較して差が大きかった項目（○は大きく上回ったもの、▲は大きく下回ったもの）

- 《小中共通》
- 授業の冒頭で、目標(めあて・ねらい)を示す活動を取り入れましたか。
- 授業の最後に学習したことを振り返る活動を取り入れましたか。
- 学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか。
- 「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けましたか。
- 《中学校のみ》
- ▲ 様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか。
- ▲ 各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか。

(3) 学校質問紙と児童生徒質問紙の回答結果の比較から差が大きかった項目

学校質問紙：授業の最後に学習したことを振り返る活動を取り入れましたか。

児童生徒質問紙：授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。

《小学校》

《中学校》

選択肢	1	2	3	4
学校	62.9	35.7	0.0	1.4
児童	38.9	37.8	17.1	5.8

選択肢	1	2	3	4
学校	29.2	70.8	0.0	0.0
児童	17.7	43.8	30.6	7.6

- 1 当てはまる 2 どちらかといえば当てはまる
3 どちらかといえば当てはまらない 4 当てはまらない

※ 児童生徒質問紙には無回答等があったため合計が100%にはなっていない。

4 本地区における学力向上に関する方向性

(1) 本地区の児童生徒の学力に関する実態から

- 基礎的・基本的な知識や技能を活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力等の育成を図る。

＜そのために必要なことは・・・＞

◇ 下位層への手立てだけでなく、中位層への手立ても授業展開の中に位置付け、中位層の児童生徒の学力を引き上げることで、学習集団全体の学力向上を図る。

＜そのために授業改善の基本方針はどうあるべきか・・・＞

目標水準の引き上げ

- ・ 児童生徒に達成させる学習目標の質を、基礎的・基本的な知識や技能を活用できるところまで高める。

学習活動における要求水準の引き上げ

- ・ 授業で取り扱う教材や学習活動の質を、知識などの教え込みに偏ることなく、児童生徒の主体的な探究、気付きを引き出すものへ高める。

(2) 本地区の児童生徒の学習状況等に関する実態から

- 本地区の児童生徒のよさを生かし、可能性を最大限に伸ばす。

より高い目標の設定

- ・ 夢や目標に対する意識、自己肯定感が高い。
→ 学習においても、より高い目標を持たせて取り組ませることにより更なる学習意欲の高揚を図り、学力向上を目指す。

家庭学習の質的向上

- ・ 家庭学習への取組がよい。
→ 学習事項と家庭学習の内容の関連等を見直すなど、家庭学習の内容、質の更なる充実を図り、学習事項の確実な定着を目指す。

読解力のレベルアップによる思考力・判断力等の向上

- ・ 読書が習慣化し、書に親しむ機会が多い。
→ 授業において、より深い読解や、発信的な読みなどにチャレンジさせ、さらに高いレベルまで読解力を高め、思考力・判断力等の向上を目指す。

- 本地区の児童生徒の課題を各学校で共有し、解決のための対策を講じる。

主体的な発表・交流活動の促進による表現力等の向上

【P31参照】

- ・ 自分の考えや意見を説明したり、発表したりすることへの苦手意識が強い。
→ 授業の中に、自分の考えや意見を発表したり、交流したりする活動を意図的に設定し、主体的に取り組ませ、表現力等の向上を目指す。
- ※ 児童生徒質問紙では、「これまでに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」の項目において、小・中ともに約80%の児童生徒が「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答している。
しかし、その一方で、依然として自分の考えや意見の説明や発表には苦手意識を持っている児童生徒が多く、学力検査の結果からも「筋道立てて考え、自分の考えを表現すること」に関する問題の正答率は低い状況にある。
その要因として、「話合いはしているが、話し合ったことが児童生徒個々の思考の深まりにつながっていないこと」等が考えられる。話合いの目的、内容については再考が必要であり、児童生徒の多様な考えを交流し、個々の思考を深めるような効果のある話合いを取り入れることが必要である。

(3) 本地区の学校における授業等に関する実態から

教科に関する調査、児童生徒質問紙調査、学校質問紙調査結果の総合的分析から明らかになった本地区の学校における授業等の実態を踏まえ、「目標水準の引き上げ」「学習活動の要求水準の引き上げ」の基本方針に基づき、以下の視点から授業改善を図る。

- ◇ 児童生徒が自ら考え活動する時間の確保と活動内容の工夫
- ◇ 児童生徒の様々な意見や考えを引き出す発問や指導の工夫
- ◇ 児童生徒の思考のプロセスを重視した学習過程の工夫
- ◇ 児童生徒相互の考えや意見の交流を図るための働きかけ
- ◇ 指導計画における言語活動の重点化
- ◇ 習熟の程度に応じて発展的な課題に取り組む時間の確保と指導の工夫

5 県教育委員会及び教育事務所における今後の取組

(1) 県教育委員会の取組

ア かがしま学びチャレンジ推進事業

【P32～36参照】

「かがしま学力向上支援Webシステムの構築」

(ア) コンセプト

ウェブサイト上に、各教科における単元や領域ごとに掲載した思考力・判断力・表現力等の到達度を問う評価問題を掲載し、各学校で活用し、結果の入力後、詳細な分析を即時に把握することが可能なシステムを構築する。

(イ) システム稼働の時期

平成26年10月から試験的運用を行い、平成27年1月から本格的に稼働する。

(ウ) 各学校における活用

児童生徒の日頃の学力の状況を的確に捉えるとともに、各教員が指導法改善の推進に生かすための基盤として積極的な活用を推進する。

平成27年度の全国学力・学習状況調査実施後に、本Webシステムを活用し、各校での採点結果を入力することにより、文部科学省による結果公表前に、県内や地区、市町村の平均正答率や小問別の平均正答率、度数分布等を把握することができ、1学期中に指導法改善に役立てることが可能である。各学校には併せて、積極的な活用を推進する。

イ かがしま学びチャレンジ推進事業

「学力向上指針（学びの羅針盤）の策定」

(ア) コンセプト

児童生徒の思考力・判断力・表現力等を向上させるため、授業改善のポイントをまとめた学力向上指針「学びの羅針盤」を策定し、各学校に提示する。

(イ) 各学校への提示の時期

平成27年3月配布予定

(ウ) 各学校における活用

校内研修等を通して、この指針に基づき、教職員全体で共通理解を図り、授業における共通実践を図るよう推進する。

(2) 教育事務所の取組

ア 始良・伊佐地区教科研究会における研究・実践の支援

【P37参照】

(ア) 目的

① 小・中学校における授業改善を図る手立てとして、指導案の作成及び検討を通して、個々の教職員の資質向上を目指す。

② 研究の成果等を広く管内の小・中学校教員に還元し、授業力の向上を図るとともに、地区全体の学力向上に資する。

(イ) 事業内容

① 各教科推進員・顧問の委嘱

② 思考力・表現力の育成を視点とした「学習指導案集」の作成

③ 理科における小中連携による教育課程研修会の実施

④ 中学校外国語における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定等

⑤ 始良・伊佐スキルアップセミナーPart2（模擬授業公開）の開催

※ 開催日：H27.1.23（金） 開催場所：国分シビックセンター

⑥ かがしま鹿児島学力向上支援 Web による情報発信

イ 県授業力プログラムに係る地区学力向上推進員の積極的な活用

各学校の指導案検討会や研究授業・授業研究における地区学力向上推進員の積極的な活用を促進する。

ウ 各種研修資料の効果的・継続的活用の促進

計画学校訪問や各種研修会等において、始良・伊佐教育事務所作成の「緑の教育リーフレット」や「始良・伊佐スタディーサポート」等の資料の活用を促進する。

エ 校内研修等への指導主事等の積極的な派遣及び指導助言

県・地区指定研究協力校をはじめ、管内の小・中学校の校内研修等に指導主事等を積極的に派遣し、思考力・判断力・表現力等の向上を目指す指導の在り方等について継続的に各学校への指導助言を行う。

オ 授業参観マニュアル（仮称）の作成と活用の促進

学力向上指針（学びの羅針盤）と連動した実践のマニュアルを作成し、各学校における積極的な活用を促進し、授業改善を図る。

始良・伊佐の学力について

～平成26年度全国学力・学習状況調査結果の分析から～

始良・伊佐教育事務所

子どもたちの無限の可能性を最大限に伸ばす授業を！
～まだまだ伸びる始良・伊佐の子どもたち！～

◎ 始良・伊佐の子どもたちの学力の状況（教科に関する調査から）

成果 基礎的・基本的事項の定着が図られている

課題 学習集団の上位層の子どもが少ない

身に付けた知識や技能を活用する力が十分に高まっていない

具体的には次のような力の向上が望めます

下位層の子どもへの手立てだけでなく、中位層の子どもへの手立ても授業展開に位置付け、中位層の子どもたちの学力を引き上げることで、学習集団全体の学力向上を目指しましょう

- ◇ 根拠を明らかにして説明する力
- ◇ 事象を関連付けて説明する力
- ◇ 考えたことを筋道立てて説明する力
- ◇ 目的に応じて文章をつくる力
- ◇ データから必要なものを選び出す力

目標水準の引き上げ

そのために必要なことは・・・

子どもたちに達成させる学習目標の質を、知識・技能を活用できるところまで高めましょう

学習活動における
要求水準の引き上げ

授業で取り扱う教材や学習活動の質を、子どもたちの主体的な探究、気付きを引き出すものにまで高めましょう

◎ 始良・伊佐の子どもたちの学習状況（児童生徒質問紙等から）

始良・伊佐の子どもたちにはこんなによいところがあります

夢や目標に対する意識が高い 自己肯定感が高い 家庭学習への取組がよい

真面目に授業に取り組む姿勢がある 読書が習慣化している

最後まであきらめずに、粘り強く取り組もうとする

子どもたちのよさを
最大限に生かし、伸ばす
ために・・・

より高い目標の設定

読解力のレベルアップによる思考力・判断力等の向上

家庭学習の質的向上

主体的な発表・交流活動の促進による表現力等の向上

◎ これからの授業改善のための視点

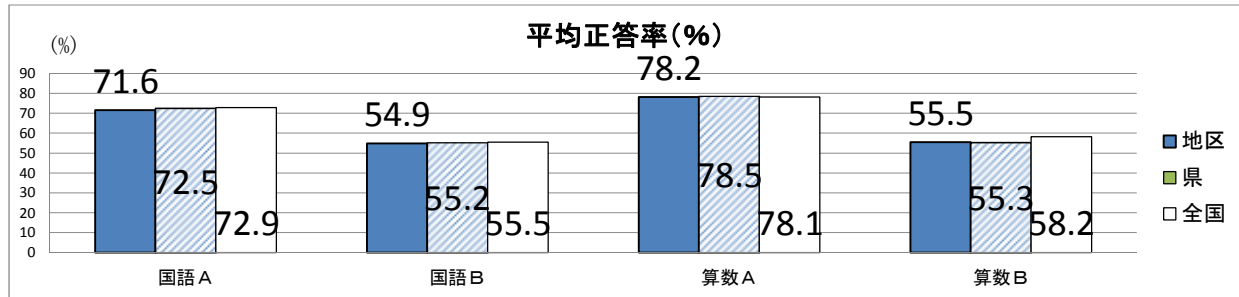
子どもたちの学力・学習状況の実態を踏まえ、次のような視点から授業改善に取り組ましましょう。

- ◇ 子どもたちが自ら考え活動する時間を確保と活動内容の工夫
- ◇ 子どもたちの様々な意見や考えを引き出す発問や指導の工夫
- ◇ 子どもたちの思考のプロセスを重視した学習過程の工夫
- ◇ 子どもたち相互の考えや意見の交流を図るための働きかけ
- ◇ 指導計画における言語活動の重点化
- ◇ 習熟の程度に応じて発展的な課題に取り組む時間の確保と指導の工夫

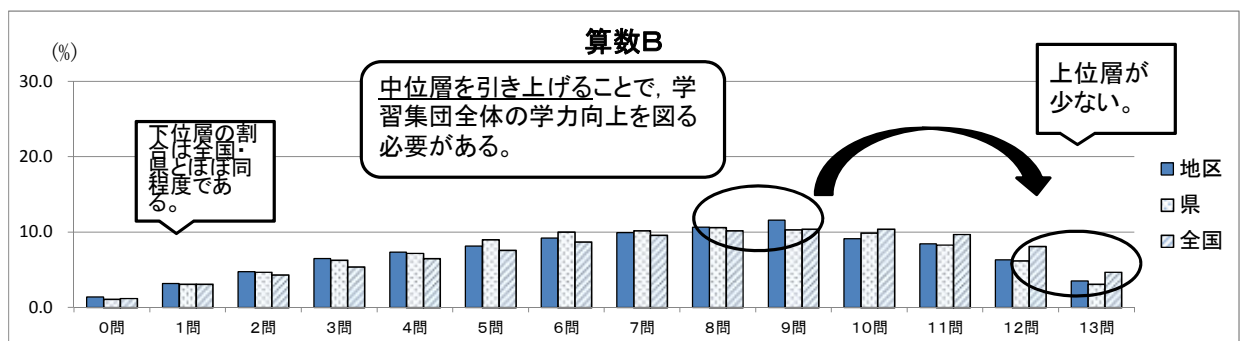
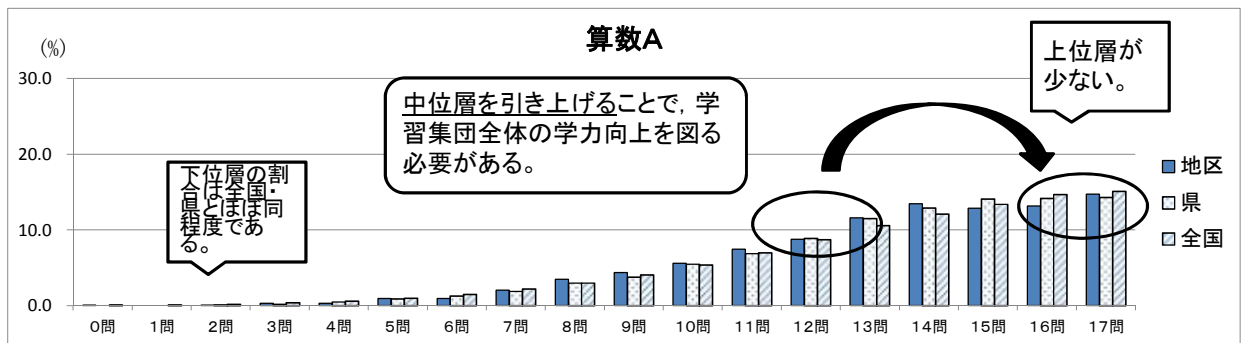
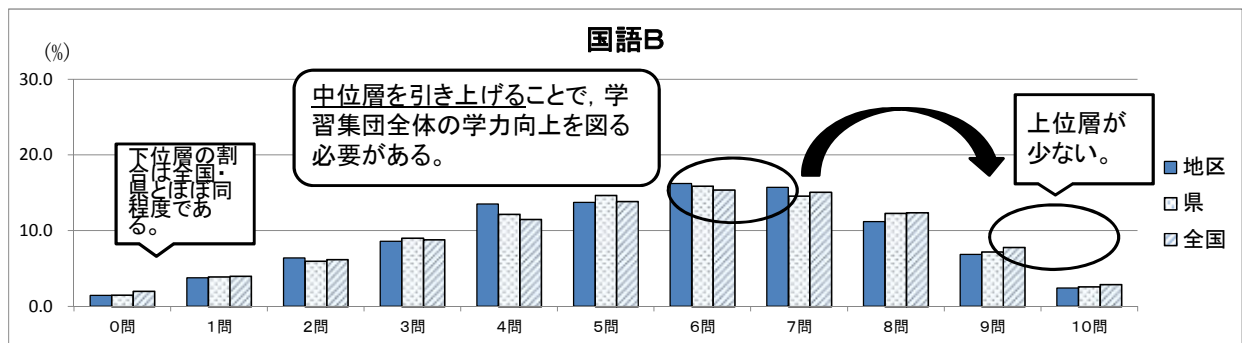
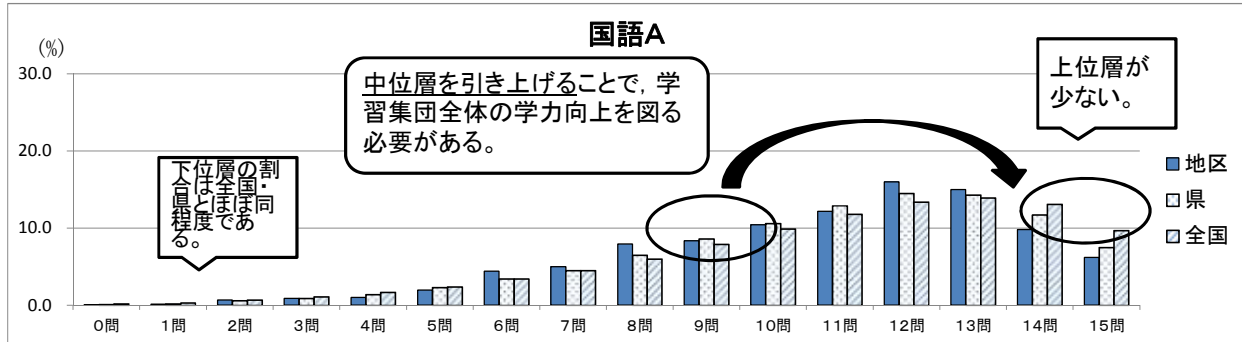
全国・県・地区における正答数別分布から(小学校)

始良・伊佐教育事務所

1. 平均正答率



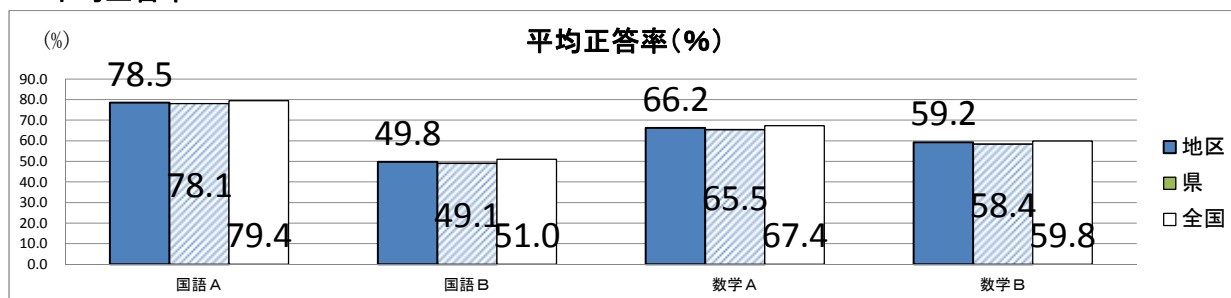
2. 正答数分布グラフ



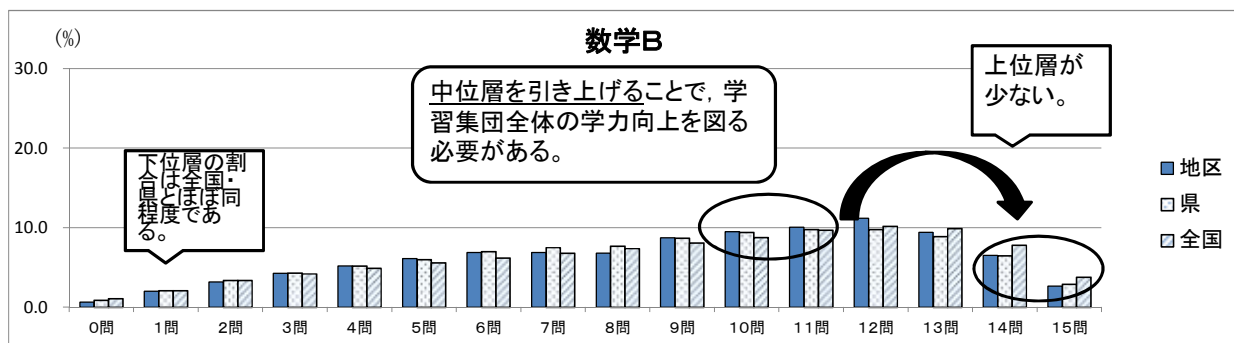
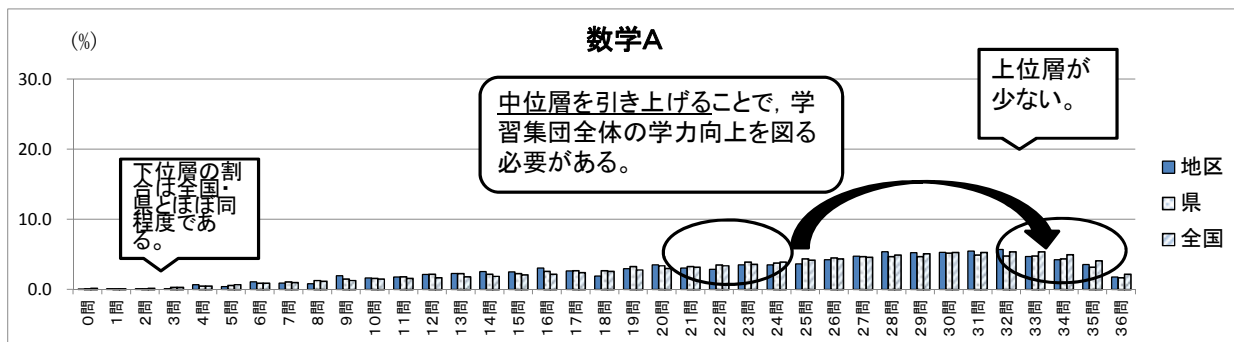
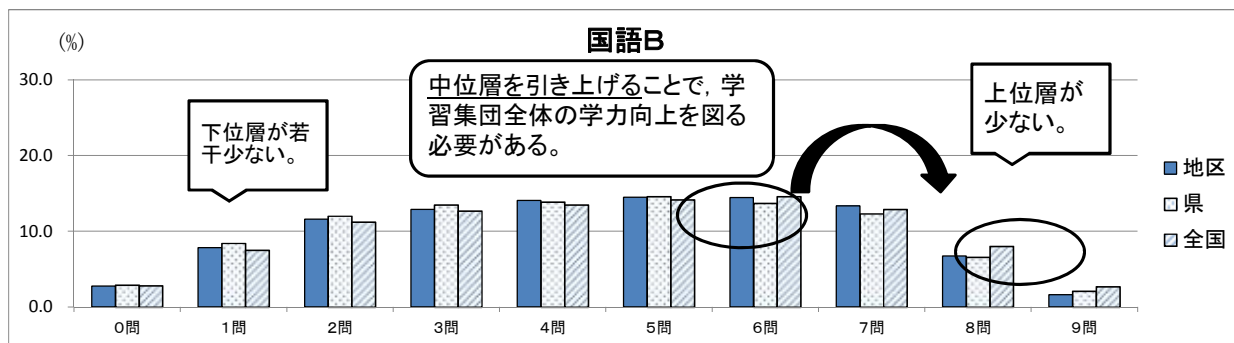
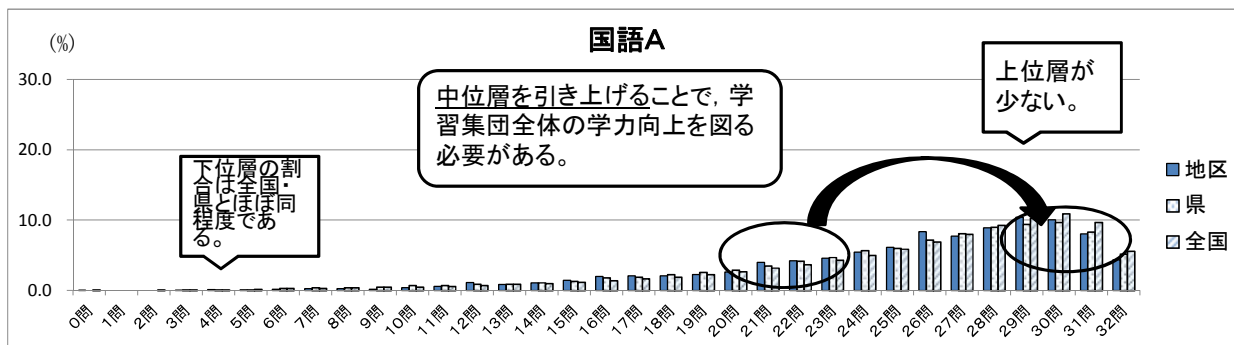
全国・県・地区における正答数別分布から(中学校)

始良・伊佐教育事務所

1. 平均正答率



2. 正答数分布グラフ



設問別調査結果 [国語A：主として知識]

始良・伊佐地区一児童

→全国・県との比較で、特に正答率が低かった設問等
 下線 →全国・県との比較で、特に正答率が高かった設問等及び無回答率が特に低かった設問等

集計結果

＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞

対象児童数		始良・伊佐地区
		2,169

分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
全体		15	71.6	72.5	-0.9	72.9	-1.3
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	74.1	74.3	-0.2	72.4	1.7
	書くこと	3	72.9	73.3	-0.4	72.2	0.7
	読むこと	2	66.8	66.4	0.4	68.5	-1.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	12	72.1	73.3	-1.2	73.7	-1.6
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0					
	話す・聞く能力	1	74.1	74.3	-0.2	72.4	1.7
	書く能力	3	72.9	73.3	-0.4	72.2	0.7
	読む能力	2	66.8	66.4	0.4	68.5	-1.7
	言語についての知識・理解・技能	12	72.1	73.3	-1.2	73.7	-1.6
問題形式	選択式	7	63.3	64.4	-1.1	66.6	-3.3
	短答式	8	78.8	79.5	-0.7	78.5	0.3
	記述式	0					

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの区分について、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)					無解答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
1ー(1)	漢字を読む (道路の標識を見る)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む	93.1	92.9	0.2	91.7	1.4	0.7	1.1	-0.4	1.7	-1.0
1ー(2)	漢字を読む (街灯がつく)		84.8	86.7	-1.9	87.0	-2.2	2.0	1.7	0.3	2.5	-0.5
1ー(3)	漢字を読む (塾いよく走り出す)		74.8	76.0	-1.2	74.4	0.4	0.8	1.2	-0.4	1.5	-0.7
1二(1)	漢字を書く (料理をのせた皿を運ぶ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く	99.0	98.6	0.4	97.8	1.2	0.2	0.3	-0.1	0.6	-0.4
1二(2)	漢字を書く (勝利をいいう)		55.8	59.2	-3.4	59.3	-3.5	7.5	7.0	0.5	6.8	0.7
1二(3)	漢字を書く (かぜをよぼうする)		79.3	79.9	-0.6	77.4	1.9	4.4	5.3	-0.9	7.2	-2.8
2ー	故事成語の使い方として適切なものを選択する (五十歩百歩)	故事成語の意味と使い方を理解する	46.3	49.3	-3.0	55.8	-9.5	0.1	0.1	0.0	0.3	-0.2
2二	故事成語の使い方として適切なものを選択する (百聞は一見にしかず)		43.3	45.0	-1.7	49.9	-6.6	0.2	0.2	0.0	0.5	-0.3
3	情景描写を正しく理解し、適切なものを選択する	情景描写の効果を捉える	55.3	55.3	0.0	58.7	-3.4	0.0	0.1	-0.1	0.2	-0.2
4	新聞の投書を読み、表現の仕方として適切なものを選択する	新聞の投書を読み、表現の仕方を捉える	70.5	70.3	0.2	71.7	-1.2	0.1	0.2	-0.1	0.3	-0.2
5	物語の一部に入る適切な人物の名前を書く	物語の登場人物の相互関係を捉える	63.1	62.6	0.5	65.3	-2.2	0.3	0.2	0.1	0.5	-0.2
6ー	「～たり、…たり」という表現に直して書く	複数の事柄を並列の関係で書く	80.6	80.2	0.4	74.9	5.7	3.5	3.6	-0.1	5.7	-2.2
6二	文の意味のつながりを捉え、適切なものを選択する	仮定の表現として、適切なものを捉える	82.9	84.4	-1.5	83.1	-0.2	1.2	1.1	0.1	2.0	-0.8
7	話合いの記録の仕方として適切なものを選択する	話合いの観点に基づいて情報を関係付ける	74.1	74.3	-0.2	72.4	1.7	1.1	1.2	-0.1	2.1	-1.0
8	言葉の意味と使い方を捉え、適切なものを選択する (はかる)	国語辞典を使って、言葉の意味と使い方を理解する	70.3	72.3	-2.0	74.3	-4.0	1.2	1.6	-0.4	2.7	-1.5

→全国・県との比較で、特に正答率が低かった設問等
下線 →全国・県との比較で、特に正答率が高かった設問等及び無回答率が特に低かった設問等

集計結果

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>

対象児童数		始良・伊佐地区					
		2,169					
分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	県対比	全国(公立)	全国対比
	全体	10	54.9	55.2	-0.3	55.5	-0.6
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	48.0	49.0	-1.0	51.2	-3.2
	書くこと	3	36.3	36.7	-0.4	34.4	1.9
	読むこと	7	57.8	57.9	-0.1	57.3	0.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	69.4	70.0	-0.6	69.8	-0.4
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	36.3	36.7	-0.4	34.4	1.9
	話す・聞く能力	3	48.0	49.0	-1.0	51.2	-3.2
	書く能力	3	36.3	36.7	-0.4	34.4	1.9
	読む能力	7	57.8	57.9	-0.1	57.3	0.5
	言語についての知識・理解・技能	2	69.4	70.0	-0.6	69.8	-0.4
問題形式	選択式	4	60.3	60.8	-0.5	62.1	-1.8
	短答式	3	66.2	66.4	-0.2	67.7	-1.5
	記述式	3	36.3	36.7	-0.4	34.4	1.9

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)					無解答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	県対比	全国(公立)	全国対比	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	県対比	全国(公立)	全国対比
1一	司会⑨の発言の内容をまとめて書く	目的に応じて、話合いの観点を整理する	60.5	61.1	-0.6	65.2	-4.7	4.7	5.9	-1.2	7.9	-3.2
1二	林さん⑩の質問の狙いとして適切なものを選択する	質問の意図を捉える	54.1	55.6	-1.5	60.2	-6.1	3.0	4.2	-1.2	3.5	-0.5
1三	大野さん⑫の発言に対し、手書きの立場から質問か意見を書く	立場を明確にして、質問や意見を述べる	29.5	30.1	-0.6	28.3	1.2	3.4	4.3	-0.9	5.0	-1.6
2一	付箋の内容を関係付けて、原田さんの疑問を書く	付箋に書かれた内容を関係付けながら、最初にもった疑問を捉える	75.6	74.3	1.3	71.9	3.7	3.3	5.7	-2.4	8.2	-4.9
2二	付箋の内容を関係付けて、野口さんのまとめを書く	分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く	27.0	27.1	-0.1	26.9	0.1	3.7	5.6	-1.9	7.4	-3.7
2三	疑問を解決するために、目次や索引の中から必要となるページの番号を書く	課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読む	62.5	63.6	-1.1	66.0	-3.5	2.2	3.2	-1.0	4.3	-2.1
3一(1)	【詩1】の表現の特徴として適切なものを選択する	二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える	81.0	80.9	0.1	80.4	0.6	2.3	3.4	-1.1	4.4	-2.1
3一(2)	【詩2】の表現の特徴として適切なものを選択する		57.8	59.1	-1.3	59.2	-1.4	2.9	4.5	-1.6	5.5	-2.6
3二	【詩2】に対する山田さんの解釈として適切なものを選択する	詩の解釈における着眼点の違いを捉える	48.3	47.4	0.9	48.5	-0.2	14.6	21.7	-7.1	19.8	-5.2
3三	【詩1】と【詩2】を比べて読んで考えたことを書く	二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く	52.4	52.8	-0.4	48.1	4.3	15.7	22.3	-6.6	26.0	-10.3

一全国・県との比較で、特に正答率が低かった設問等
 下線 一全国・県との比較で、特に正答率が高かった設問等及び無回答率が特に低かった設問等

＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞

集計結果

対象生徒数		始良・伊佐地区					
		2,192					
分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
学習指導要領の領域等	全体	32	78.5	78.1	0.4	79.4	-0.9
	話すこと・聞くこと	4	70.3	69.4	0.9	72.3	-2.0
	書くこと	6	81.7	81.3	0.4	83.4	-1.7
	読むこと	5	79.6	78.5	1.1	82.9	-3.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	79.0	78.9	0.1	78.7	0.3
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0					
	話す・聞く能力	4	70.3	69.4	0.9	72.3	-2.0
	書く能力	6	81.7	81.3	0.4	83.4	-1.7
	読む能力	5	79.6	78.5	1.1	82.9	-3.3
	言語についての知識・理解・技能	17	79.0	78.9	0.1	78.7	0.3
問題形式	選択式	20	81.3	81.0	0.3	83.2	-1.9
	短答式	12	73.7	73.2	0.5	73.1	0.6
	記述式	0					

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)					無解答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
1一	フリップの効果を説明したものとして適切なものを選択する	目的に応じて、資料を効果的に活用して話す	78.5	77.4	1.1	78.6	-0.1	0.1	0.1	0.0	0.2	-0.1
1二	報告の内容を踏まえた質問として適切なものを選択する	必要に応じて質問し、足りない情報を聞き出す	74.8	75.4	-0.6	80.3	-5.5	0.2	0.2	0.0	0.2	0.0
2一	主人公の気持ちの変化にふさわしい空の描写として適切なものを選択する	心情が相手に効果的に伝わるように、描写を工夫して書き加える	87.8	87.4	0.4	90.9	-3.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.0
2二	仲直りができてうれしい主人公の気持ちを印象深く伝えるために書き換える	語句や文の使い方に注意して、伝えたい心情にふさわしい言葉に書き換える	80.6	79.5	1.1	79.8	0.8	9.0	10.0	-1.0	9.2	-0.2
3一	主人公が「素通りが出来なくなる」と思った理由として適切なものを選択する	登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する	89.3	89.3	0.0	91.9	-2.6	0.1	0.1	0.0	0.2	-0.1
3二	「ひとしくおれの方を見た」の意味として適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する	77.3	75.7	1.6	79.8	-2.5	0.2	0.1	0.1	0.2	0.0
3三	生徒の落書きを見たときの主人公の心情を説明したものとして適切なものを選択する	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する	72.9	73.3	-0.4	79.1	-6.2	0.3	0.3	0.0	0.4	-0.1
4一	ウェブページの項目として適切なものを選択する	集めた材料を分類するなどして整理する	94.8	94.1	0.7	92.6	2.2	0.2	0.3	-0.1	0.4	-0.2
4二	主語を置き換えて行事の記録を書き直す	叙述の仕方などを確かめて、適切に書き換える	77.0	76.3	0.7	80.5	-3.5	4.0	4.4	-0.4	3.1	0.9
5一	「動物」と「外界のもの」との組合せとして適切なものを選択する	抽象的な概念を表す語句が示すものについて理解する	76.0	72.8	3.2	78.2	-2.2	0.3	0.4	-0.2	0.4	-0.2
5二	「次々に簡略化していった」理由を説明したものとして適切なものを選択する	文章全体と部分との関係を考え、内容を理解する	82.4	81.3	1.1	85.6	-3.2	0.4	0.6	-0.2	0.5	-0.1
6一	二人の発言を聞いて、意見の相違点を整理する	目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する	54.4	51.8	2.6	54.3	0.1	5.8	6.7	-0.9	5.9	-0.1
6二	話し合いの方向を捉えた司会の役割として適切なものを選択する	話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす	73.4	73.0	0.4	76.0	-2.6	1.1	1.2	-0.1	1.2	-0.1
7一	文章を書くために使った付箋として適切なものを選択する	多様な方法で材料を集めながら考えをまとめる	82.4	82.6	-0.2	84.6	-2.2	0.4	0.6	-0.2	0.6	-0.2
7二	文章の構成を変える理由として適切なものを選択する	書いた文章について意見を交流し、文章を書き直す	67.3	68.1	-0.8	72.1	-4.8	1.1	1.3	-0.2	1.0	0.1

―全国・県との比較で、特に正答率が低かった設問等
 下線 ―全国・県との比較で、特に正答率が高かった設問等及び無回答率が特に低かった設問等

＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞

集計結果

対象生徒数		始良・伊佐地区 2,192	
分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)
学習指導要領の領域等	全体	32	始良・伊佐地区 78.5 鹿児島県(公立) 78.1 対県比 0.4 全国(公立) 79.4 対全国比 -0.9
	話すこと・聞くこと	4	70.3 69.4 0.9 72.3 -2.0
	書くこと	6	81.7 81.3 0.4 83.4 -1.7
	読むこと	5	79.6 78.5 1.1 82.9 -3.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	79.0 78.9 0.1 78.7 0.3
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	
	話す・聞く能力	4	70.3 69.4 0.9 72.3 -2.0
	書く能力	6	81.7 81.3 0.4 83.4 -1.7
	読む能力	5	79.6 78.5 1.1 82.9 -3.3
	言語についての知識・理解・技能	17	79.0 78.9 0.1 78.7 0.3
問題形式	選択式	20	81.3 81.0 0.3 83.2 -1.9
	短答式	12	73.7 73.2 0.5 73.1 0.6
	記述式	0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)					無解答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
8-1	漢字を書く(地域の人をショウタイする)	文脈に即して漢字を正しく書く	55.5	55.8	-0.3	57.6	-2.1	9.4	10.7	-1.3	12.3	-2.9
8-2	漢字を書く(円のハンケイを求める)		63.9	66.8	-2.9	59.5	4.4	2.1	2.0	0.1	3.3	-1.2
8-3	漢字を書く(計画を行動にうつす)		74.0	74.2	-0.2	73.6	0.4	10.9	10.6	0.3	10.9	0.0
8-21	漢字を読む(アユの稚魚を放流する)	文脈に即して漢字を正しく読む	79.8	81.0	-1.2	77.0	2.8	4.5	6.2	-1.7	7.7	-3.2
8-22	漢字を読む(このホールは音響効果が良い)		92.3	89.9	2.4	88.6	3.7	1.9	3.3	-1.4	4.1	-2.2
8-23	漢字を読む(新記録に挑む)		96.5	96.1	0.4	95.2	1.3	0.4	0.9	-0.5	1.3	-0.9
8-3ア	適切な語句を選択する(よい結果を早く出したいときは、急がば回れといわれるように、かえって慎重に議論を進めるべきだ)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	55.4	53.7	1.7	59.2	-3.8	0.9	0.9	0.0	1.0	-0.1
8-3イ	適切な語句を選択する(先のことは分からないが、とりあえず準備だけはしておく)		96.7	96.1	0.6	96.2	0.5	0.3	0.5	-0.2	0.6	-0.3
8-3ウ	適切な語句を選択する(地域の伝統的な文化を継承する)		82.3	83.6	-1.3	80.8	1.5	0.5	0.7	-0.2	0.8	-0.3
8-3エ	適切な語句を選択する(笑い声が満ちている家には幸運が訪れることを、「笑う門には福来たる」という)		90.8	92.2	-1.4	89.5	1.3	0.3	0.6	-0.3	0.7	-0.4
8-3オ	適切な敬語を選択する(お客様、私が校内をご案内します)		92.6	92.6	0.0	93.0	-0.4	0.5	0.6	-0.1	0.8	-0.3
8-3カ	適切な語句を選択する(あの人は、墨刀直入にものを言う)		83.6	82.2	1.4	86.3	-2.7	0.7	1.0	-0.3	1.1	-0.4
8-3キ	適切な語句を選択する(忙しい兄は、休日のにのびのびと羽を伸ばす)		91.0	91.8	-0.8	92.1	-1.1	1.0	1.0	0.0	1.0	0.0
8-4	国語辞典で調べたことを基に、語句の意味を書く(英気を養う)	辞書を活用して、語句の意味を適切に書く	58.1	57.4	0.7	59.9	-1.8	12.9	12.8	0.1	12.3	0.6
8-51	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(まうけて)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む	83.5	80.1	3.4	80.3	3.2	6.2	6.6	-0.4	7.0	-0.8
8-52	古文に当てはまる言葉を昔話の中から抜き出す	古典と昔話とを対応させて内容を捉える	69.5	69.5	0.0	71.0	-1.5	8.7	9.5	-0.8	9.0	-0.3
8-6	文字を書く際に生かしたアドバイスとして適切なものを選択する	文字の大きさ、配列などに注意して書く	77.6	77.7	-0.1	77.6	0.0	1.2	1.5	-0.3	1.6	-0.4

→全国・県との比較で、特に正答率が低かった設問等
下線 →全国・県との比較で、特に正答率が高かった設問等及び無回答率が特に低かった設問等

集計結果

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>

対象生徒数		始良・伊佐地区 2,191					
分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
学習指導要領の領域等	全体	9	49.8	49.1	0.7	51.0	-1.2
	話すこと・聞くこと	0					
	書くこと	3	40.6	41.0	-0.4	41.0	-0.4
	読むこと	8	47.8	47.6	0.2	49.2	-1.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	56.8	55.5	1.3	56.8	0.0
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	40.6	41.0	-0.4	41.0	-0.4
	話す・聞く能力	0					
	書く能力	3	40.6	41.0	-0.4	41.0	-0.4
	読む能力	8	47.8	47.6	0.2	49.2	-1.4
	言語についての知識・理解・技能	4	56.8	55.5	1.3	56.8	0.0
問題形式	選択式	6	54.3	53.1	1.2	55.9	-1.6
	短答式	0					
	記述式	3	40.6	41.0	-0.4	41.0	-0.4

設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)					無解答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
1一	標語に使用されている表現の技法として適切なものを選択する	表現の技法について理解する	65.4	60.9	4.5	65.3	0.1	0.2	0.2	0.0	0.3	-0.1
1二	標語から伝わってくるメッセージを書く際に、気を付けたこととして適切なものを選択する	文章に表れているものの見方について、自分の考えをもつ	59.0	58.6	0.4	58.9	0.1	0.1	0.3	-0.2	0.4	-0.3
1三	ノートに基に、標語から伝わってくる(メッセージ)と(表現の工夫とその効果)を書く	文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書く	47.3	49.2	-1.9	48.2	-0.9	2.3	2.3	0.0	3.4	-1.1
2一	本とインターネットの内容を比較したときの説明として適切なものを選択する	複数の資料を比較して読み、要旨を捉える	28.3	29.0	-0.7	31.4	-3.1	0.3	0.4	-0.1	0.6	-0.3
2二	本やインターネットの内容から答えが得られるものとして適切なものを選択する	複数の資料から必要な情報を読み取る	55.2	53.3	1.9	60.9	-5.7	0.5	0.6	-0.1	0.7	-0.2
2三	水の中に浸すと、切手をきれいに貼ることができる理由を書く	資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く	27.3	26.9	0.4	28.4	-1.1	14.0	15.6	-1.6	16.0	-2.0
3一	演者が顔を向ける方向として適切なものを選択する	本や文章から、目的に応じて必要な情報を読み取る	51.1	51.6	-0.5	52.0	-0.9	0.4	0.6	-0.2	0.7	-0.3
3二	殿さまの言葉が表す殿さまの姿として適切なものを選択する	落語に登場する人物の言動の意味を考え、その姿を想像する	67.2	65.1	2.1	67.2	0.0	0.4	0.8	-0.4	0.8	-0.4
3三	落語の演じ方を選択し、なぜそのように演じるのかを、本文を根拠に殿さまの気持ちを想像して書く	落語に表れているものの見方や考え方について、根拠を明確にして自分の考えを書く	47.2	46.8	0.4	46.5	0.7	5.6	6.4	-0.8	8.6	-3.0

→全国・県との比較で、特に正答率が低かった設問等
下線→全国・県との比較で、特に正答率が高かった設問等及び無回答率が特に低かった設問等

集計結果

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>

対象児童数		始良・伊佐地区					
		2,169					
分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
	全体	17	78.2	78.5	-0.3	78.1	0.1
学習指導要領の領域	数と計算	8	81.1	81.2	-0.1	81.8	-0.7
	量と測定	3	73.8	75.2	-1.4	74.8	-1.0
	図形	4	74.2	74.1	0.1	71.8	2.4
	数量関係	3	80.9	81.3	-0.4	81.3	-0.4
		0					
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0					
	数学的な考え方	0					
	数量や図形についての技能	8	88.9	88.9	0.0	87.9	1.0
	数量や図形についての知識・理解	9	68.6	69.3	-0.7	69.5	-0.9
問題形式	選択式	8	69.4	69.9	-0.5	70.7	-1.3
	短答式	9	86.0	86.2	-0.2	84.8	1.2
	記述式	0					

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について 各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)					無解答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
1(1)	46+57 を計算する	繰り上がりのある加法の計算をすることができる	96.3	96.7	-0.4	96.9	-0.6	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0
1(2)	903×6 を計算する	被乗数に空白のある整数の乗法の計算をすることができる	92.5	92.8	-0.3	92.8	-0.3	0.1	0.1	0.0	0.2	-0.1
1(3)	9-0.8 を計算する	小数第1位までの減法の計算をすることができる	84.7	84.5	0.2	83.8	0.9	0.4	0.4	0.0	0.8	-0.4
1(4)	2÷5 を計算する	商が小数になる除法の計算をすることができる	93.0	93.0	0.0	91.8	1.2	0.3	0.5	-0.2	0.9	-0.6
1(5)	100-20×4 を計算する	減法と乗法の混合した整数の計算をすることができる	83.5	83.4	0.1	80.9	2.6	0.1	0.2	-0.1	0.5	-0.4
1(6)	1÷3+2÷5 を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができる	91.6	91.9	-0.3	90.6	1.0	0.3	0.6	-0.3	1.1	-0.8
2(1)	示された図を基に、赤いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の1.2倍に当たるときの赤いテープの長さを求める式を選ぶ	割合が1より大きい場合、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることを理解している	66.9	67.1	-0.2	71.9	-5.0	0.1	0.1	0.0	0.3	-0.2
2(2)	示された図を基に、青いテープの長さが白いテープの長さ(80cm)の0.4倍に当たるときの青いテープの長さを求める式を選ぶ	割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることを理解している	49.5	47.9	1.6	54.1	-4.6	0.2	0.2	0.0	0.4	-0.2
3	示された分数の中から、1/2より大きいものを選ぶ	分数の相等及び大小について理解している	74.2	75.8	-1.6	72.5	1.7	0.4	0.3	0.1	0.6	-0.2
4(1)	8m ² に16人いるAの部屋の様子を表している図を選ぶ	二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを調べる場面と図とを関連付けることができる	78.5	80.1	-1.6	82.3	-3.8	0.3	0.3	0.0	0.7	-0.4
4(2)	8m ² に16人いるAの部屋について、1m ² 当たりの人数を求める式を書く	単位量当たりの大きさの求め方を理解している	61.6	63.7	-2.1	60.8	0.8	1.9	2.1	-0.2	3.4	-1.5
5(1)	直径6cmの円の円周を求める式と答えを書く	円周の長さを、直径の長さを用いて求めることができる	89.5	87.8	1.7	83.9	5.6	0.8	1.0	-0.2	1.5	-0.7
5(2)	1cm ³ の立方体を基に、示された直方体の体積を求める	体積の単位(1cm ³)と測定について理解している	81.2	81.9	-0.7	81.1	0.1	0.9	1.2	-0.3	1.8	-0.9
6	コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ	作図に用いられている図形の約束や性質を理解している	55.1	55.6	-0.5	52.0	3.1	0.4	0.5	-0.1	0.6	-0.2
7	縦5cm、横11cm、高さ4cmの直方体の面⑦になる四角形を選ぶ	立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係について理解している	71.9	72.3	-0.4	69.4	2.5	0.4	0.6	-0.2	0.7	-0.3
8	答えが100-20×4の式で求められる問題を選ぶ	四則の混合した式の意味について理解している	78.7	79.7	-1.0	81.0	0.8	0.5	0.8	-0.3	0.9	-0.4
9	正五角形の1辺の長さを□cm、まわりの長さを△cmとしたときの、□と△の関係を正しく表している式を選ぶ	二つの数量の関係を□、△などの記号を用いて式に表すことができる	80.4	80.8	-0.4	82.0	1.0	0.9	1.0	-0.1	1.2	-0.3

設問別調査結果 【算数B：主として活用】

始良・伊佐地区

→全国・県との比較で、特に正答率が低かった設問等
下線 →全国・県との比較で、特に正答率が高かった設問等及び無回答率が特に低かった設問等

集計結果

＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞

対象児童数		始良・伊佐地区					
		2,170					
分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
全体		13	55.5	55.3	0.2	58.2	-2.7
学習指導要領の領域	数と計算	8	59.3	59.2	0.1	61.3	-2.0
	量と測定	5	53.6	52.5	1.1	56.5	-2.9
	図形	1	62.6	63.7	-1.1	65.7	-3.1
	数量関係	5	51.9	51.7	0.2	56.2	-4.3
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0					
	数学的な考え方	6	45.6	45.5	0.1	47.8	-2.2
	数量や図形についての技能	4	74.4	74.5	-0.1	76.2	-1.8
	数量や図形についての知識・理解	3	50.1	49.3	0.8	54.8	-4.7
問題形式	選択式	4	61.0	60.5	0.5	64.7	-3.7
	短答式	4	60.2	60.1	0.1	62.2	-2.0
	記述式	5	47.3	47.2	0.1	49.7	-2.4

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)					無解答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
1 (1)	示されたかけ算の中で積に同じ数字が並ぶものを選ぶ	示された場面から計算の結果の見直しをもち、(2位数)×(1位数)の筆算をすることができる	93.8	94.0	-0.2	94.6	-0.8	0.1	0.1	0.0	0.3	-0.2
1 (2)	二人の説明を基に、 37×24 の積が888になるを書く	示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述できる	54.1	52.6	1.5	55.2	-1.1	3.9	4.2	-0.3	6.0	-2.1
2 (1)	6・7月の水の使用量 1500m^3 は、プールに入る水の量 250m^3 の何倍かを求める式と答えを書く	示された場面から基準量と比較量を捉え、倍を求めることができる	83.6	81.4	2.2	82.5	1.1	1.7	1.9	-0.2	3.0	-1.3
2 (2)	1日盛りを 50m^3 として学校の水の使用量の表を棒グラフに表すとき、棒が縦20マスの中に入らない月を選び、そのわけを書く	最大値に着目して、棒グラフの棒を枠の中に表すことができない理由を記述できる	66.0	66.9	-0.9	69.1	-3.1	1.6	1.8	-0.2	2.6	-1.0
2 (3)	6・7月の水の使用量が、1年間の水の使用量の $1/4$ より多いことを説明するために用いる適当なグラフを選ぶ	全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択することができる	53.5	51.0	2.5	61.5	-8.0	0.7	0.9	-0.2	1.2	-0.5
3 (1)	昨年の昼食時間を見直したときに、今年は準備の時間を何分間にすればよいかを書く	示された情報を基に、条件に合う時間を求めることができる	37.1	36.5	0.6	38.6	-1.5	2.7	2.7	0.0	3.4	-0.7
3 (2)	40人分のご飯を分けるとき、10人分の目安を正しく表している図を全て選ぶ	10人分の量を基に40人分の量を相対的に捉え、その関係を表している図を選択することができる	51.7	51.7	0.0	56.7	-5.0	1.1	1.3	-0.2	1.8	-0.7
3 (3)	示された分け方でスープを分けたとき、残りの30人にスープを分けることができるかどうかを選び、そのわけを書く	示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述できる	27.9	26.9	1.0	30.6	-2.7	1.4	1.5	-0.1	1.9	-0.5
4 (1)	㊦のリズムを3回目に演奏するのは何小節目かを書く	繰り返されるリズムの規則性(周期)を見だし、それを基に小節数を求めることができる	57.6	58.9	-1.3	62.2	-4.6	1.2	1.2	0.0	1.7	-0.5
4 (2)	二人の㊦のリズムが重なる12小節目の12はどのような数であるかを書く	二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述できる	60.3	60.9	-0.6	60.5	-0.2	10.2	10.2	0.0	12.1	-1.9
5 (1)	量の敷き方の約束を基に、残り4枚の長方形の板を置いた図をかく	示された条件を基に、残った平面に4つの長方形を敷き詰めることができる	62.6	63.7	-1.1	65.7	-3.1	4.3	4.6	-0.3	5.2	-0.9
5 (2)	使いやすい箸の長さの目安を基に、一あた半の長さを表している図を選ぶ	示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択することができる	45.1	45.1	0.0	46.1	-1.0	2.9	3.0	-0.1	3.5	-0.6
5 (3)	妹の身長を基に、妹の使いやすい箸の長さの求め方と答えを書く	示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述できる	28.2	29.0	-0.8	33.0	-4.8	11.6	11.6	0.0	13.1	-1.5

→全国・県との比較で、特に正答率が低かった設問等
→全国・県との比較で、特に正答率が高かった設問等及び無回答率が特に低かった設問等

集計結果

＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞

対象生徒数		始良・伊佐地区 2,196					
分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
学習指導要領の領域	全体	36	66.2	65.5	0.7	67.4	-1.2
	数と式	12	75.7	75.3	0.4	77.4	-1.7
	図形	12	65.7	65.1	0.6	66.4	-0.7
	関数	8	55.5	55.3	0.2	58.0	-2.5
	資料の活用	4	60.2	58.2	2.0	59.1	1.1
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0					
	数学的な見方や考え方	0					
	数学的な技能	15	66.6	66.4	0.2	68.2	-1.6
	数量や図形などについての知識・理解	21	65.8	65.0	0.8	66.8	-1.0
問題形式	選択式	18	63.5	62.7	0.8	64.4	-0.9
	短答式	18	68.8	68.4	0.4	70.4	-1.6
	記述式	0					

設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)					無解答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
1(1)	$3/4 \div 5/6$ を計算する	分数の除法の計算ができる	84.7	85.8	-1.1	85.8	-1.1	1.9	2.0	-0.1	2.8	-0.9
1(2)	$2 \times (-5^2)$ を計算する	指数を含む正の数と負の数の計算ができる	68.2	66.8	1.4	70.7	-2.5	0.8	0.9	-0.1	1.5	-0.7
1(3)	-7の絶対値を書く	絶対値の意味を理解している	77.6	75.4	2.2	81.0	-3.4	8.2	8.5	-0.3	5.9	2.3
1(4)	35を基準にして38を正の数で表す	正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解している	91.1	90.1	1.0	91.1	0.0	1.8	1.9	-0.1	2.3	-0.5
2(1)	「プールの水の深さは120cm以下である」という数量の関係を表した不等式を書く	数量の大小関係を不等式に表すことができる	43.3	41.7	1.6	45.2	-1.9	10.9	10.8	0.1	11.1	-0.2
2(2)	$10xy \div 5x$ を計算する	単項式どうしの除法の計算ができる	90.5	90.7	-0.2	90.7	-0.2	1.7	1.9	-0.2	2.4	-0.7
2(3)	$a=2$ 、 $b=3$ のときの式 ab^2 の値を求める	指数を含む文字式に数を代入して式の値を求めることができる	82.0	82.3	-0.3	82.6	-0.6	6.1	6.0	0.1	5.9	0.2
2(4)	男子 m 人と女子 n 人が1人2個ずつ持った風船の合計数を、 m と n を用いて表した式を選ぶ	数量を文字式で表すことができる	89.4	90.1	-0.7	91.2	-1.8	0.2	0.2	0.0	0.4	-0.2
3(1)	一元一次方程式を解くとき、移項が行われている式変形として正しいものを選ぶ	等式の性質と移項の関係を理解している	88.8	88.9	-0.1	89.7	-0.9	0.5	0.4	0.1	0.6	-0.1
3(2)	一元一次方程式 $(x-1)/3=2$ を解く	分数を含む一元一次方程式を解くことができる	57.3	56.8	0.5	59.5	-2.2	12.3	13.5	-1.2	12.4	-0.1
3(3)	連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を選び、式で表す	着目する必要がある数量を見だし、その数量に着目し、連立二元一次方程式をつくることができる	72.8	73.7	-0.9	74.1	-1.3	0.5	0.8	-0.3	1.0	-0.5
3(4)	連立二元一次方程式 $\begin{cases} x=3x-2 \\ y=2x+3 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	62.2	61.1	1.1	67.2	-5.0	11.0	11.7	-0.7	10.0	1.0
4(1)	線対称な図形を完成する	対称軸が与えられたときに、線対称な図形を完成することができる	92.8	93.0	-0.2	93.8	-1.0	2.0	2.3	-0.3	2.5	-0.5
4(2)	与えられた方法で作図される直線について、正しい記述を選ぶ	線分の垂直二等分線の作図の方法について理解している	54.7	51.5	3.2	56.0	-1.3	0.4	0.5	-0.1	0.7	-0.3
4(3)	与えられた角が回転移動した後の角を選ぶ	図形の回転移動について、移動前と移動後の2つの図形の辺や角の対応を読み取ることができる	42.2	42.8	-0.6	42.5	-0.3	0.4	0.4	0.0	0.6	-0.2
5(1)	直方体の1つの面の対角線を含む直線と平行な面を書く	空間における直線と平面の平行について理解している	82.6	81.8	0.8	81.0	1.6	3.4	3.6	-0.2	4.2	-0.8
5(2)	三角形をそれと垂直な方向に一定の距離だけ平行に動かしてできる立体の名称を選ぶ	平面図形をその面と垂直な方向に平行に移動させたときの、空間図形の構成について理解している	87.8	87.0	0.8	84.8	3.0	0.2	0.3	-0.1	0.5	-0.3
5(3)	円錐の展開図において、側面のおうぎ形の半径を読み取る	円錐の展開図において、おうぎ形の半径が円錐の母線に対応していることを読み取ることができる	66.7	67.8	-1.1	67.7	-1.0	6.0	6.8	-0.8	7.4	-1.4
5(4)	円柱と円錐の体積を比較し、正しい図を選ぶ	底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解している	39.7	38.6	1.1	38.7	1.0	0.7	0.5	0.2	0.7	0.0

→全国・県との比較で、特に正答率が低かった設問等
→全国・県との比較で、特に正答率が高かった設問等及び無回答率が特に低かった設問等

集計結果

<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>

対象生徒数		始良・伊佐地区 2,196		平均正答率(%)				
分類	区分	対象設問数 (問)	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	
学習指導要領の領域	全体	36	66.2	65.5	0.7	67.4	-1.2	
	数と式	12	75.7	75.3	0.4	77.4	-1.7	
	図形	12	65.7	65.1	0.6	66.4	-0.7	
	関数	8	55.5	55.3	0.2	58.0	-2.5	
	資料の活用	4	60.2	58.2	2.0	59.1	1.1	
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0						
	数学的な見方や考え方	0						
	数学的な技能	15	66.6	66.4	0.2	68.2	-1.6	
	数量や図形などについての知識・理解	21	65.8	65.0	0.8	66.8	-1.0	
問題形式	選択式	18	63.5	62.7	0.8	64.4	-0.9	
	短答式	18	68.8	68.4	0.4	70.4	-1.6	
	記述式	0						

設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)					無解答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
6(1)	長方形ABCDにおいて、 $AC=BD$ が表す性質を選ぶ	記号で表された図形の構成要素間の関係を読み取ることができる	61.3	61.0	0.3	61.7	-0.4	0.3	0.4	-0.1	0.6	-0.3
6(2)	三角形の外角について、正しい記述を選ぶ	三角形の外角とそれと隣り合わない2つの内角の和の関係を理解している	71.1	70.0	1.1	73.4	-2.3	1.0	1.1	-0.1	1.0	0.0
6(3)	n 角形の内角の和を求める式について、六角形の内角の和を求める過程を読み、 $(n-2)$ が表すものをを選ぶ	n 角形の内角の和を求める式 $180 \times (n-2)$ における $(n-2)$ の意味を理解している	47.7	47.7	0.0	47.8	-0.1	1.1	1.1	0.0	1.0	0.1
7	証明で用いられている三角形の合同条件を選ぶ	証明を読み、根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	69.1	67.4	1.7	73.1	-4.0	0.9	1.1	-0.2	0.9	0.0
8	証明の方針を立てる際に着目すべき図形を指摘する	証明のための構想や方針の必要性と意味を理解している	73.3	72.6	0.7	75.8	-2.5	6.4	7.3	-0.9	7.2	-0.8
9	与えられた表を基に、宅配サービスの重量と料金の関係を、「…は…の関数である」という形で表現する	関数の意味を理解している	34.7	35.3	-0.6	35.8	-1.1	18.0	18.2	-0.2	17.9	0.1
10(1)	$x=2$ 、 $y=6$ の比例の式を求める	比例の関係を式に表すことができる	50.5	50.0	0.5	56.7	-6.2	14.0	14.6	-0.6	13.0	1.0
10(2)	反比例の性質を表した記述を選ぶ	反比例の意味を理解している	74.7	73.6	1.1	75.9	-1.2	0.9	1.2	-0.3	1.1	-0.2
10(3)	$s=vt$ を基に、速さ v が一定のとき、時間 t と道のり s の関係について、正しい記述を選ぶ	与えられた式を基に、事象における2つの数量の関係が比例であることを判断することができる	55.4	56.6	-1.2	60.4	-5.0	1.6	1.8	-0.2	1.5	0.1
10(4)	反比例のグラフから表を選ぶ	反比例について、グラフと表を関連付けて理解している	46.0	44.4	1.6	45.7	0.3	1.7	2.1	-0.4	1.7	0.0
11(1)	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	一次関数の変化の割合の意味を理解している	44.0	43.3	0.7	47.3	-3.3	1.8	1.9	-0.1	1.8	0.0
11(2)	一次関数 $y=3x-4$ のグラフを選ぶ	一次関数 $y=ax+b$ について、 a と b の値とグラフの特徴を関連付けて理解している	73.2	74.1	-0.9	75.1	-1.9	1.5	1.6	-0.1	1.4	0.1
12	グラフから、連立二元一次方程式の解を座標とする点を選ぶ	連立二元一次方程式の解が、2直線の交点の座標として求められることを理解している	65.5	65.0	0.5	66.7	-1.2	2.9	3.0	-0.1	2.5	0.4
13(1)	生徒60人の通学時間の分布を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める	度数分布表から相対度数を求めることができる	41.2	41.0	0.2	42.7	-1.5	17.5	16.8	0.7	16.7	0.8
13(2)	ハンドボール投げの記録の分布を表したヒストグラムから、記録の中央値を含む階級を選ぶ	ヒストグラムにおいて、中央値の意味を理解している	56.8	52.8	3.0	52.0	4.8	2.2	2.1	0.1	1.8	0.4
14(1)	画びょうを投げた実験結果から、上向きになる確率を選ぶ	確率の意味を理解している	75.7	74.3	1.4	76.6	-0.9	2.1	2.5	-0.4	2.0	0.1
14(2)	樹形図を利用して、3枚の硬貨を同時に投げるとき、表が2枚、裏が1枚出る確率を求める	樹形図などを利用して、確率を求めることができる	67.1	64.6	2.5	65.1	2.0	10.5	11.1	-0.6	10.6	-0.1

→全国・県との比較で、特に正答率が低かった設問等
下線 →全国・県との比較で、特に正答率が高かった設問等及び無回答率が特に低かった設問等

集計結果

＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞

対象生徒数		始良・伊佐地区 2,197						
分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率(%)					
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	
学習指導要領の領域	全体	15	59.2	58.4	0.8	59.8	-0.6	
	数と式	3	57.8	56.9	0.9	56.9	0.9	
	図形	5	56.1	55.1	1.0	58.6	-2.5	
	関数	5	64.7	64.4	0.3	64.4	0.3	
	資料の活用	2	55.4	54.2	1.2	55.9	-0.5	
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0						
	数学的な見方や考え方	14	57.1	56.3	0.8	57.9	-0.8	
	数学的な技能	0						
	数量や図形などについての知識・理解	1	88.5	88.2	0.3	87.5	1.0	
問題形式	選択式	3	82.6	82.1	0.5	83.2	-0.6	
	短答式	6	63.4	62.9	0.5	63.3	0.1	
	記述式	6	43.4	42.1	1.3	44.8	-1.4	

設問別集計結果

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	正答率(%)					無解答率(%)				
			始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	対県比	全国(公立)	対全国比
1(1)	案内図を基に、経路を示すはり紙を選ぶ	与えられた図から情報を適切に選択し、空間における図形の位置関係を的確に捉えることができる	74.3	73.7	0.6	77.0	-2.7	0.1	0.1	0.0	0.3	-0.2
1(2)	外から校舎を見た図で、案内図に示された非常口の位置を選ぶ	日常的な事象を表した図を観察し、空間における位置に関する情報を適切に読み取ることができる	93.3	92.2	1.1	92.8	0.5	0.1	0.2	-0.1	0.4	-0.3
1(3)	図形の性質を用いて、横断幕が木にまったく隠れない最も低い位置を求める方法を言葉や図で説明する	事象を理想化・単純化し、その結果を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明することができる	60.9	57.9	3.0	60.6	0.3	12.0	13.0	-1.0	12.7	-0.7
2(1)	2つの偶数の和は偶数になることの説明を完成するために、式 $2m+2n$ を変形する	与えられた説明の筋道を読み取り、式を適切に変形することで、その説明を完成することができる	63.5	62.8	0.7	61.2	2.3	7.7	8.0	-0.3	9.3	-1.6
2(2)	2つの偶数の積は8の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その積を求める	事柄が成り立たない理由を説明する場面、反例をあげることで、その説明を完成することができる	65.5	64.4	1.1	65.4	0.1	6.9	7.3	-0.4	9.0	-2.1
2(3)	2つの偶数の商についての正しい記述を選び、その理由を説明する	予想された事柄が成り立たないことを判断し、その事柄が成り立たない理由を説明することができる	44.4	43.5	0.9	44.2	0.2	4.7	5.1	-0.4	6.3	-1.6
3(1)	与えられた表やグラフから、人数が24人のときに6.0秒かったことを表す点を求める	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる	88.5	88.2	0.3	87.5	1.0	4.5	4.9	-0.4	5.8	-1.3
3(2)	大地さんの求め方を基に、ウェーブをする人数と時間について、2つの数量の間の関係を説明する	事象を理想化・単純化して問題解決した結果を解釈し、数量の関係を数学的に説明することができる	58.4	58.1	0.3	62.3	-3.9	32.8	32.6	0.2	30.1	2.7
4(1)	2つの線分の長さが等しいことを証明する	図形の性質を、構想を立てて証明することができる	33.2	32.5	0.7	39.4	-6.2	23.1	25.8	-2.7	22.5	0.6
4(2)	$\angle BAC=110^\circ$ 、 $BD=AD$ のとき、 $\angle DAE$ の大きさを求める	付加された条件の下で、証明を振り返って考え、事柄を用いることができる	18.8	19.0	-0.2	23.3	-4.5	25.1	27.8	-2.7	25.8	-0.7
5(1)	スティックゲームの遊び方を基に、1本表、3本裏のときの得点を求める	ある場合の得点を樹形図を利用して求めることで、与えられた情報を分類整理することができる	79.0	78.2	0.8	79.7	-0.7	3.4	4.1	-0.7	4.8	-1.4
5(2)	1点と2点のとりやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる	31.8	30.1	1.7	32.1	-0.3	4.9	6.0	-1.1	7.3	-2.4
6(1)	弟が駅に着いたときの、兄のいる地点から駅までの道のりを求める	与えられたグラフを、事象に即して解釈することができる	64.9	64.8	0.1	62.7	2.2	6.7	7.4	-0.7	9.0	-2.3
6(2)	兄の速さを変えないとき、弟と兄の進む様子を表したグラフを選ぶ	グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善することができる	80.1	80.3	-0.2	79.8	0.3	1.7	2.1	-0.4	2.5	-0.8
6(3)	兄の出発時間を変えないとき、兄の進む様子を表すグラフの両端の2点を求め、そのグラフから兄の速さを求める方法を説明する	グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善して問題を解決する方法を説明することができる	31.6	30.4	1.2	29.9	1.7	15.0	15.9	-0.9	17.5	-2.5

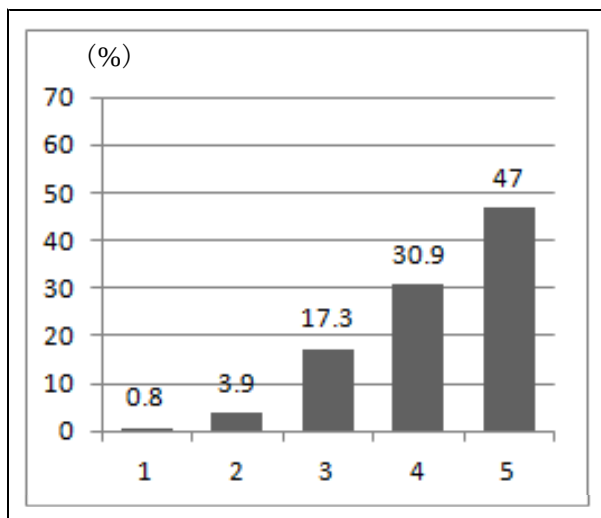
平成26年度全国学力・学習状況調査結果について

始良・伊佐教育事務所

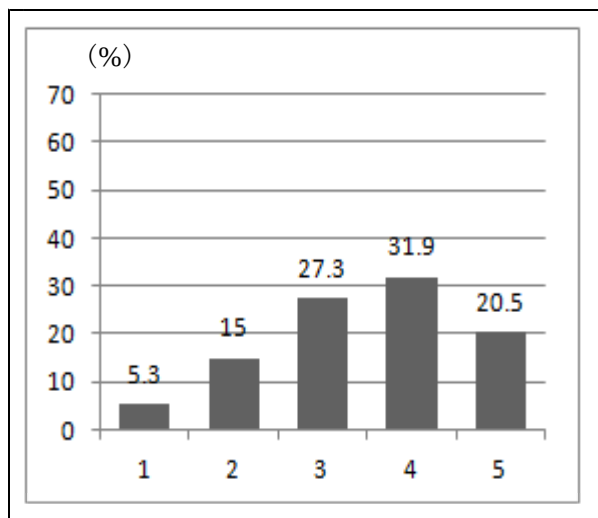
小学校国語

1 本地区の正答率分布グラフ

【国語 A】



【国語 B】



2 指導改善のポイント（全国の正答率と比べて）

	国語 A	国語 B
成果と重点課題	○ 複数の事例を並列の関係で書き直すこと ▲ 故事成語の意味や使い方を理解すること ▲ 言葉の意味と使い方を捉え、適切なものを選択する（はかる）こと ▲ 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くこと ▲ 情景描写の効果を捉えること	○ 二つの詩を比べて読み、自分の考えを書くこと ○ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること ▲ 質問の意図を捉えること ▲ 目的に応じて、話合いの観点を整理すること ▲ 課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読むこと
授業改善の視点 例	□ 故事成語の意味や使い方を正しく理解し、実生活の中で用いる。 □ 国語辞典を使って調べる習慣を付ける。言葉の意味を理解し、適切に使い分ける。 □ 点画の数やとめ、はね、はらいなど、間違いやすいところを特に注意し、正しく書くことができるように指導する。 □ 読むことの関連を図り、物語を創作する。	□ 互いの立場や意見を踏まえた上で、質問や意見を述べる。多様な質問の観点とそれに基づく話型を具体的に指導する。 □ 司会の役割を理解し、立場や意図を捉えながら討論を進めるようにする。 □ 課題に対する解答や結果の予想を立て、どのような方法で必要な情報を収集するとよいかなど、解決のための見通しをもって本や文章を探して読む。

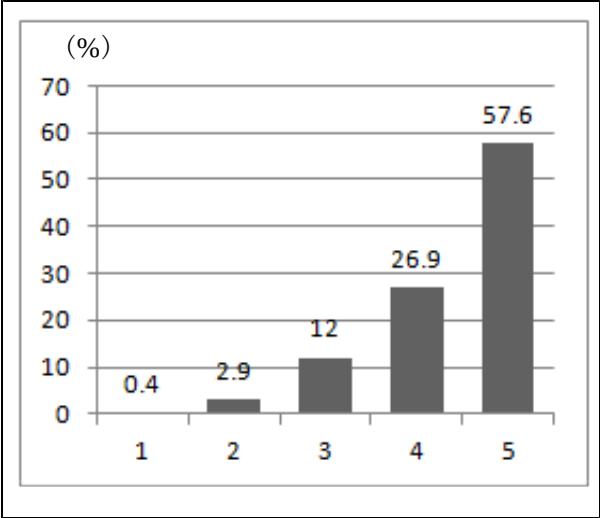
平成26年度全国学力・学習状況調査結果について

始良・伊佐教育事務所

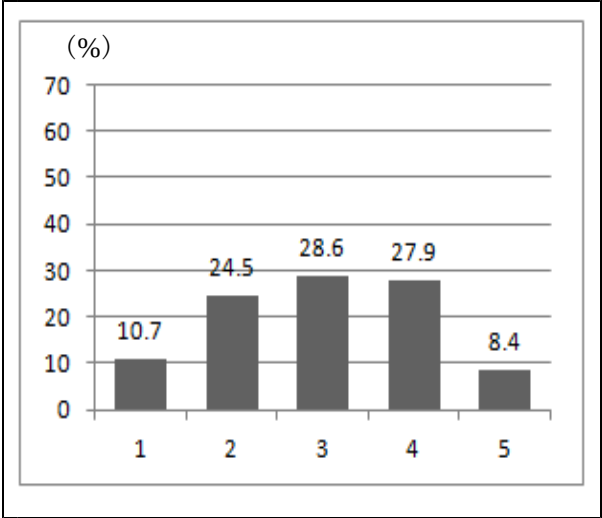
中学校国語

1 本地区の正答率分布グラフ

【国語 A】



【国語 B】



2 指導改善のポイント（全国の正答率と比べて）

	国語 A	国語 B
成果と重点課題	○ 文脈に即して漢字を正しく読んだり、書いたりすること ○ 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと ▲ 必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること ▲ 書いた文章について意見を交流し、文章を書き直すこと ▲ 叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること	○ 根拠を明確にして自分の考えを書くこと ▲ 複数の資料から必要な情報を読み取ること ▲ 複数の資料を比較して読み、要旨を捉えること
授業改善の視点 例	□ 必要な情報を得るために、適切な質問をする。 □ 交流の重点を単元の狙いに合わせ、明確にする。 □ 伝えたい事柄が明確になるように、主語と述語の関係や修飾語・被修飾語の関係など文の構成や接続の仕方に着目して、その効果を考えながら推敲する。	□ 目的に応じて複数の資料から必要な情報を読み取る。有効な情報に印を付したり、重要な部分を抜き書きしたりするなどして、効率的に必要な情報を取り出す方法を身に付けるように指導する。 □ 目的に応じて文章の要旨を的確に捉える。読む目的を明確にした上で、中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、必要な情報を正しく得るように指導する。

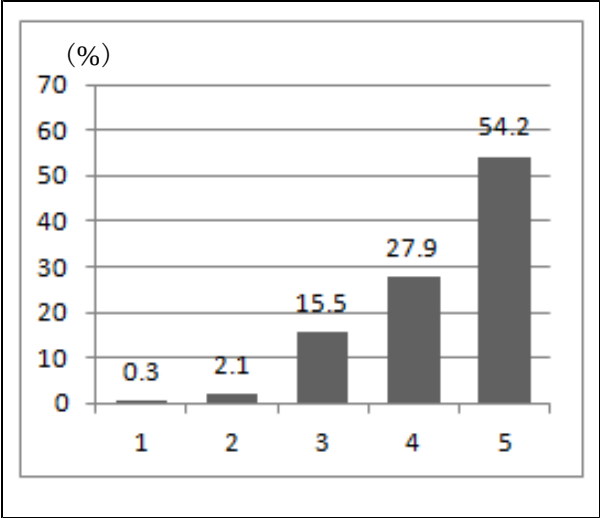
平成26年度全国学力・学習状況調査結果について

始良・伊佐教育事務所

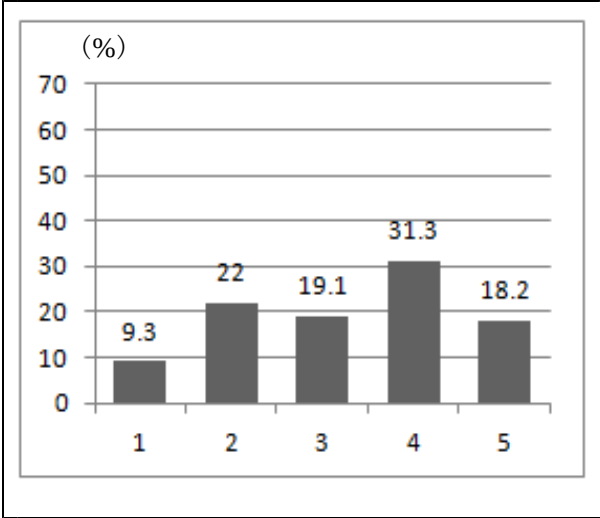
小学校算数

1 本地区の正答率分布グラフ

【算数A】



【算数B】



2 指導改善のポイント（全国の正答率と比べて）

	算数A	算数B
成果と重点課題	○円周の長さを、直径の長さを用いて求めること ○作図に用いられている図形の約束や性質を理解すること ▲割合が1より大きい場合、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることを理解すること ▲割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることを理解すること ▲二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを調べる場面と図とを関連付けること	○示された場面（規準量よりも比較量の方が大きい場面）から基準量と比較量を捉え、倍を求めること ▲全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択すること ▲10人分の量を基に40人分の量を相対的に捉え、その関係を表している図を選択すること ▲示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述すること
授業改善の視点	□図を用いるなどして、規準量と比較量の関係を的確に捉えさせてから、演算決定できるようにする。 □算数的活動（言語活動）をとおして、言葉や図、式、表、グラフとの関連付けを図る。また、途中の過程などをノートに書かせるなどして、思考の跡を残させる。	□目的に応じて、適切な表やグラフを選択したり、表したりする活動をとおして、それぞれの特徴を明確に表現させる。 □思考・判断したことを書く時間や、表現する時間を確保するとともに、伝え合い、練り合う場面をとおして、自分の言葉で学習をまとめさせる。

例

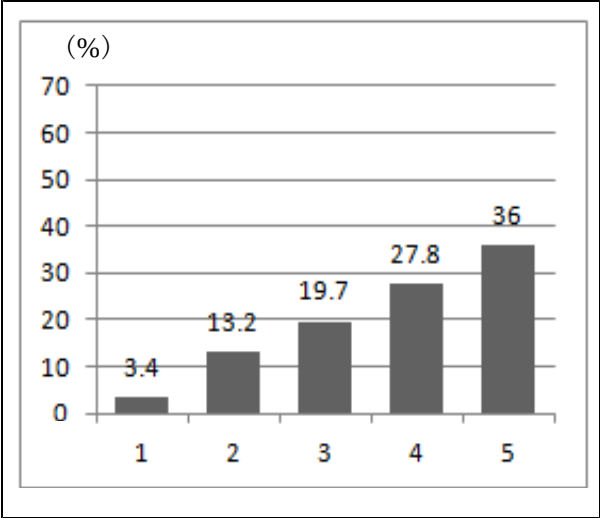
平成26年度全国学力・学習状況調査結果について

始良・伊佐教育事務所

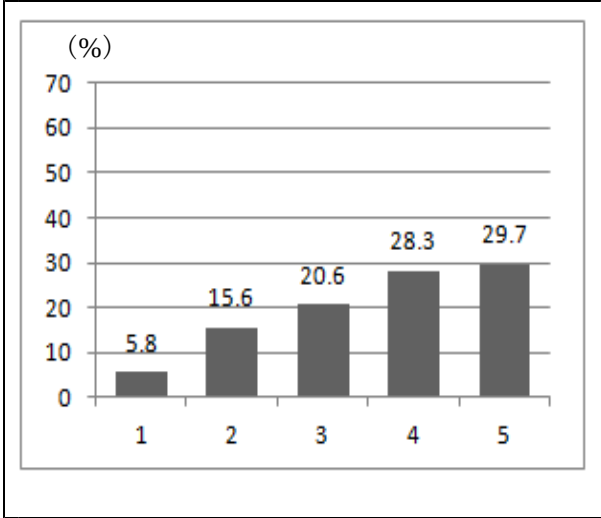
中学校数学

1 本地区の正答率分布グラフ

【数学A】



【数学B】



2 指導改善のポイント（全国の正答率と比べて）

	数学A	数学B
成果と重点課題	○ヒストグラムにおいて、中央値の値を理解すること ○平面図形をその面と垂直な方向に平行に移動させたときの、空間図形の構成を理解すること ▲比例の関係を式に表すこと ▲与えられた式を基に、事象における二つの数量の関係が比例であることを判断すること ▲簡単な連立二元一次方程式を解くこと	○与えられた説明の筋道を読み取り、式を適切に変形することで、その証明を完成すること ○与えられたグラフを、事象に即して解釈すること ▲図形の性質を、構想を立てて証明すること ▲付加された条件の下で、証明を振り返って考え、証明の過程で見いだした事柄や証明された事柄を用いること
授業改善の視点	□ x、y の値を座標に示すなど、グラフを活用しながら問題解決を図る場を設定する。 □ 数学的活動（言語活動）をとおして、言葉や図、式、表、グラフとの関連付けを図る。また、途中の過程などをノートに書き残せるなどして、思考の跡を残させる。	□ 導入では、証明の手順や方法について見通しを立てさせ、その見通しに基づいて証明する活動を充実させる。 □ 仮定と結論を意識付けるために、コンパスや三角定規を用いて丁寧に作図する活動や、条件に合わせて図を書き直す活動を取り入れる。

例

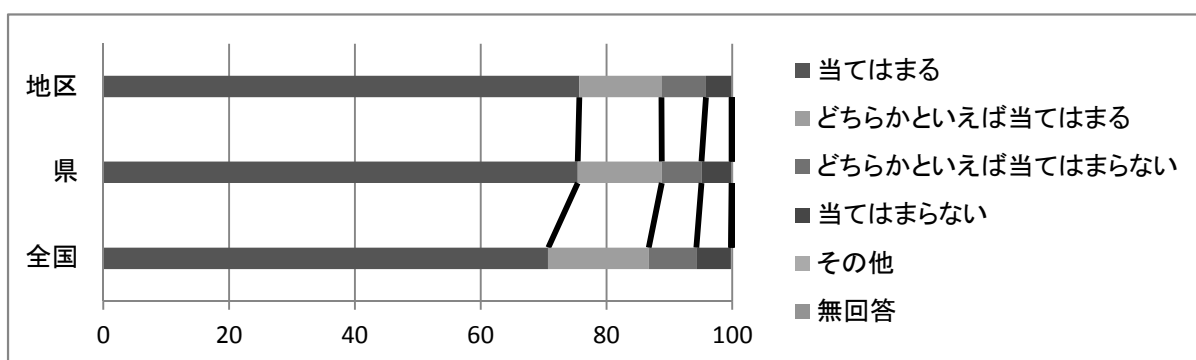
本地区の児童生徒の学習状況等に関する実態

～児童生徒質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった質問項目から～

将来の夢や目標を持っていますか

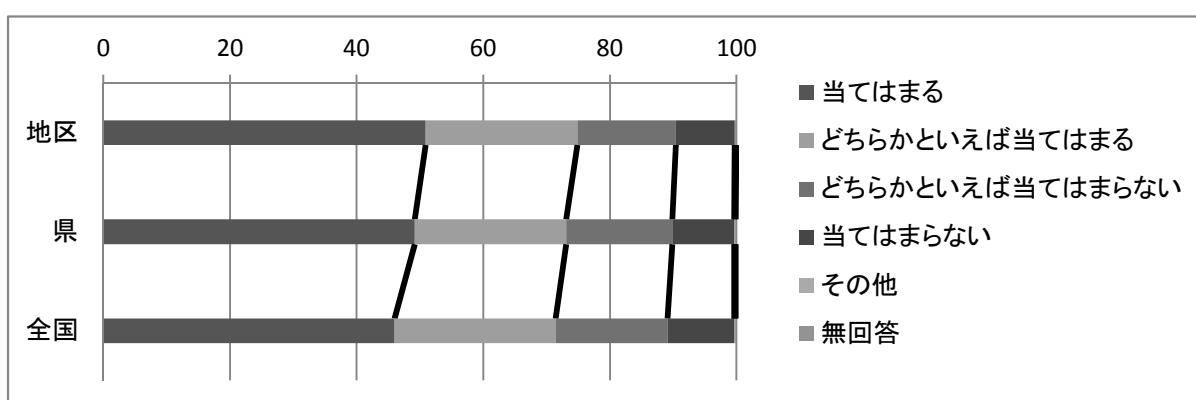
【小学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	75.7	13.1	7.1	4.1					0.0	0.0
県	75.4	13.4	6.3	4.8					0.1	0.1
全国	70.7	16.0	7.6	5.5					0.1	0.1



【中学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	50.9	24.0	15.5	9.3					0.0	0.3
県	49.2	23.9	16.8	9.8					0.0	0.2
全国	46.0	25.4	17.7	10.6					0.0	0.2



夢や目標を持っている子どもの割合が高い。



学習においても、より高い目標を持たせて、取り組ませることにより更なる学力向上が期待できる。

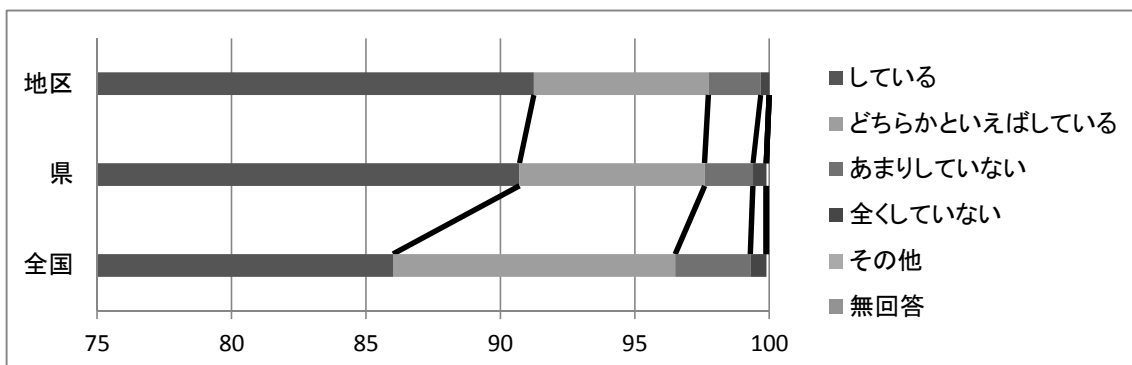
本地区の児童生徒の学習状況等に関する実態

～児童生徒質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった質問項目から～

家で、学校の宿題をしていますか

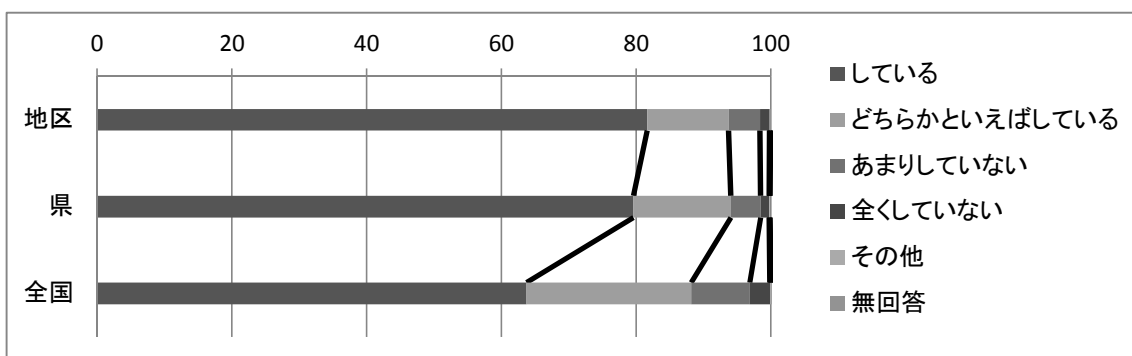
【小学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	91.2	6.5	1.9	0.3					0.0	0.0
県	90.7	6.9	1.8	0.5					0.0	0.0
全国	86.0	10.5	2.8	0.6					0.0	0.0



【中学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	81.6	12.1	4.6	1.4					0.0	0.1
県	79.6	14.5	4.4	1.3					0.1	0.0
全国	63.7	24.5	8.7	3.0					0.1	0.1



家庭学習の状況は総じて良好である。特に中学生の家庭学習の状況は、県・全国と比較からも、たいへんよい状況にあることが分かる。



家庭で学習する習慣はしっかりできている。今後は、学習事項と宅習の内容の関連を見直すなど、宅習の内容、質の更なる充実を図り、学習事項の確実な定着を目指すことが大切である。

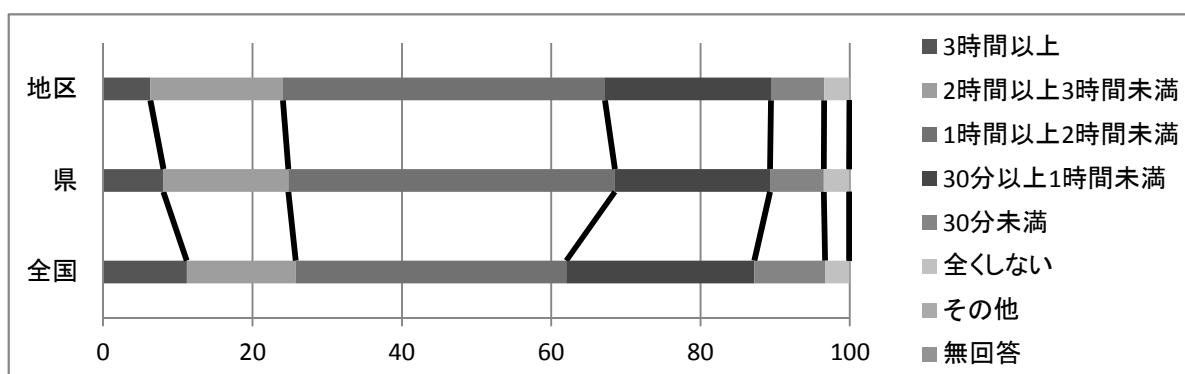
本地区の児童生徒の学習状況等に関する実態

～児童生徒質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった質問項目から～

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

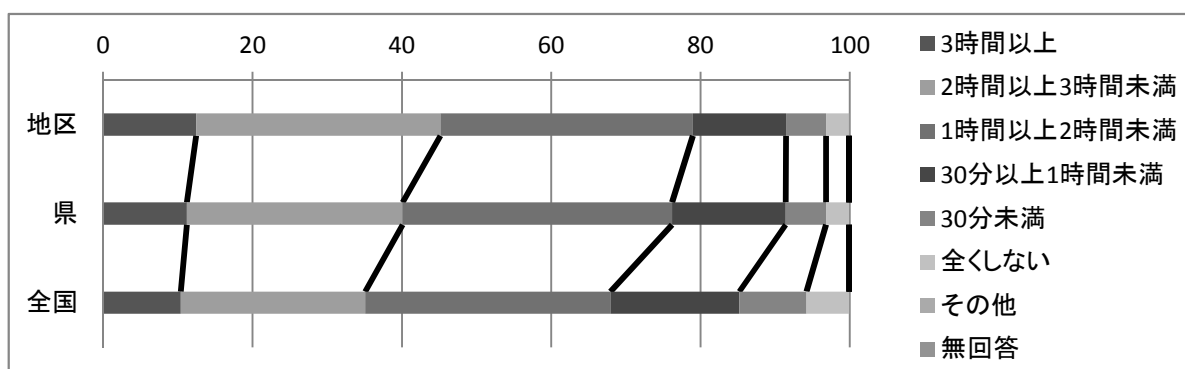
【小学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	6.3	17.7	43.1	22.3	7.1	3.4			0.0	0.0
県	8.1	16.7	43.7	20.8	7.2	3.4			0.1	0.0
全国	11.2	14.6	36.2	25.2	9.5	3.2			0.1	0.0



【中学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	12.4	32.7	33.8	12.4	5.4	3.1			0.0	0.1
県	11.2	28.9	36.1	15.2	5.4	3.1			0.0	0.0
全国	10.4	24.7	32.8	17.3	9.0	5.7			0.0	0.1



家庭学習の状況は総じて良好である。特に中学生の学習時間は、県・全国と比較からも、たいへんよい状況にあることが分かる。



家庭での学習時間がしっかりと確保され、家庭学習の習慣はしっかりとできている。今後は、宅習の内容の充実を図り、学習事項の確実な定着を目指すことが大切である。

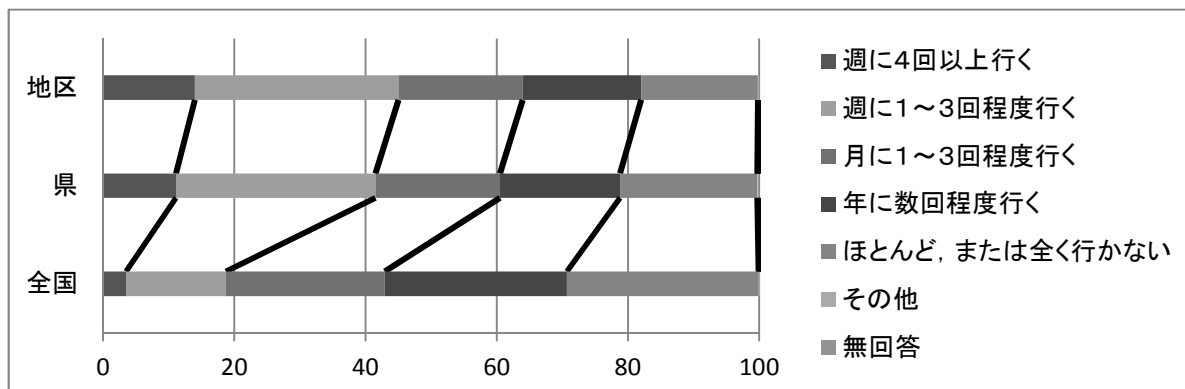
本地区の児童生徒の学習状況等に関する実態

～児童生徒質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった質問項目から～

昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか

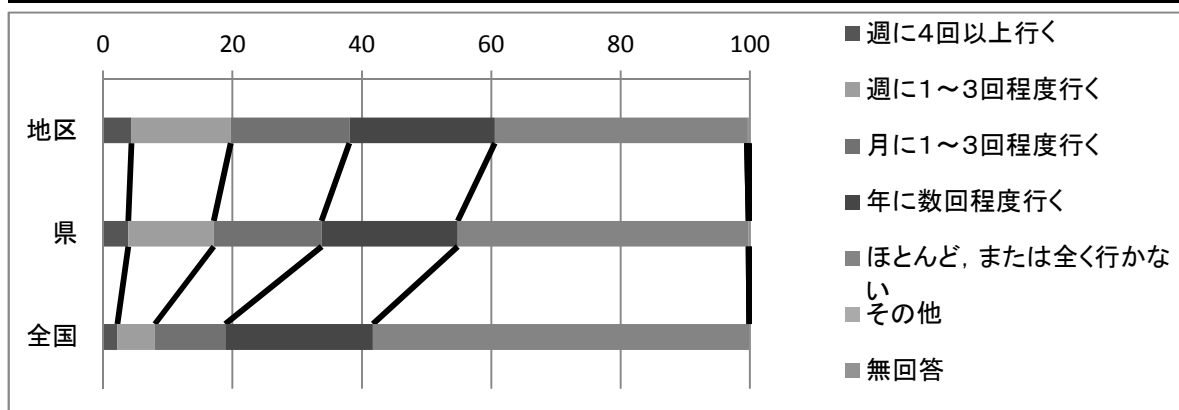
【小学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	14.0	31.0	18.9	18.0	17.8				0.2	0.0
県	11.1	30.4	19.0	18.3	20.9				0.1	0.0
全国	3.5	15.2	24.2	27.8	29.2				0.2	0.0



【中学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	4.4	15.4	18.4	22.5	39.0				0.0	0.5
県	3.9	13.2	16.7	21.0	45.0				0.0	0.2
全国	2.2	5.8	10.9	22.8	58.2				0.0	0.2



読書に親しんでいる児童生徒が多い。(質問22「読書は好きですか」でも「好き」と回答した割合が全国・県よりも高い。)



「読むこと」に意欲的な子どもが多いことから、授業においてもより深い読解、発信的な読みなどにチャレンジさせることで、更なる読解力の向上が期待できる。

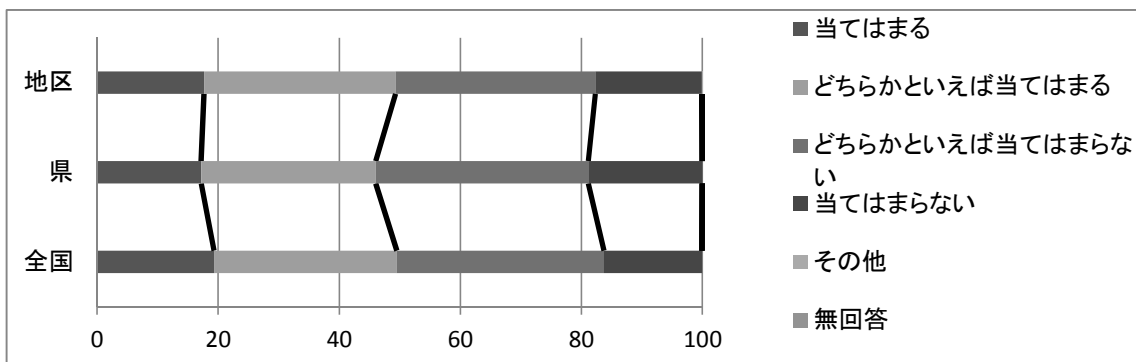
本地区の児童生徒の学習状況等に関する実態

～児童生徒質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった質問項目から～

友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか

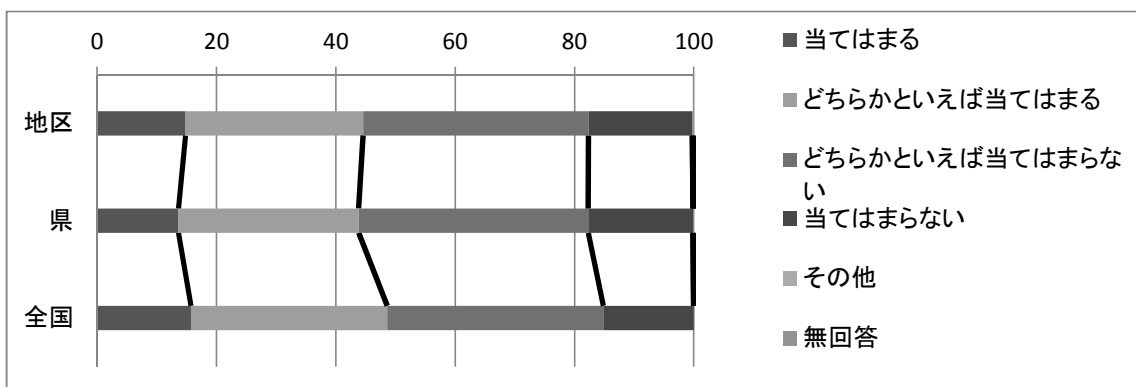
【小学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	17.6	31.6	33.0	17.6					0.1	0.0
県	17.2	28.8	35.1	18.9					0.0	0.0
全国	19.3	30.2	34.2	16.2					0.0	0.0



【中学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	14.8	29.8	37.7	17.5					0.0	0.2
県	13.6	30.2	38.5	17.6					0.0	0.1
全国	15.7	32.9	36.2	15.2					0.0	0.1



自分の考えや意見を発表することに自信をもっている子どもの割合が低い。(対全国比)



授業の中に、考えを発表したり、交流したりする活動を意図的に設定する必要がある。その際、児童生徒の様々な意見や考えを引き出す発問等を工夫し、思考力・判断力・表現力の向上に効果のある活動になるようにすることも必要である。

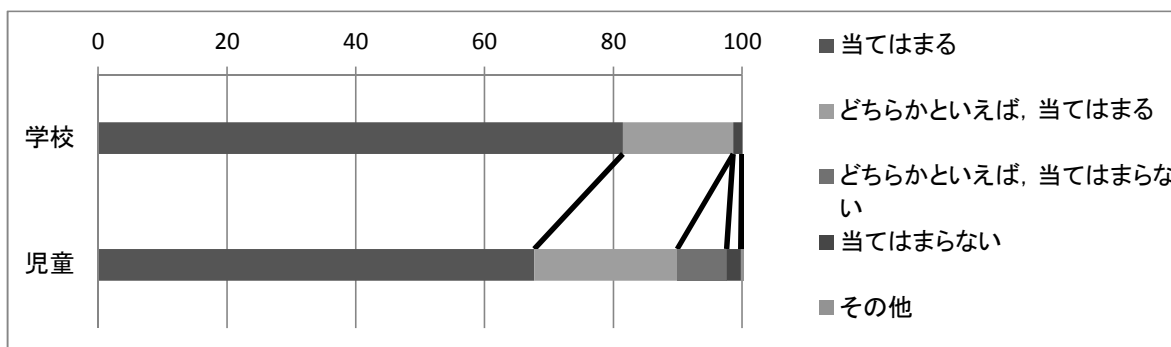
本地区の学校における授業等に関する実態

～学校質問紙調査と児童生徒質問紙調査の回答結果の比較から～

学校	授業の冒頭で、目標（めあて・ねらい）を示す活動を取り入れましたか
児童生徒	授業のはじめで、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか

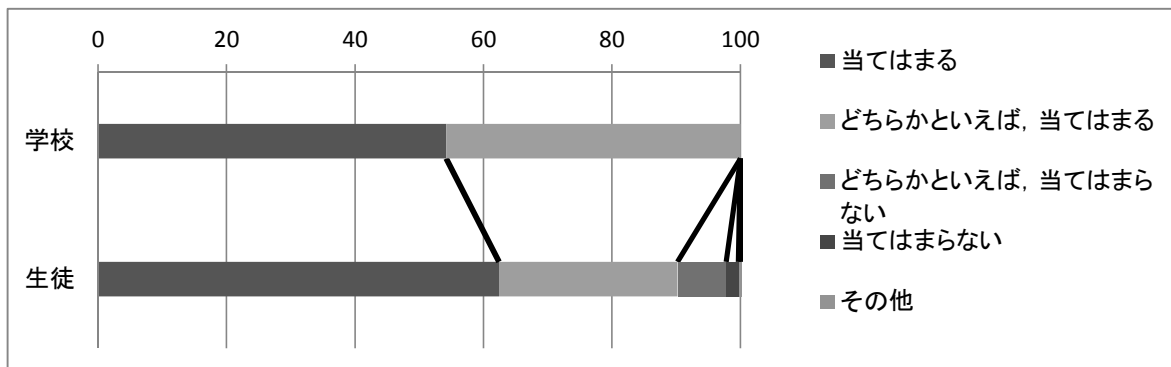
【小学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他・無回答
学校	81.4	17.1	0.0	1.4					0.0
児童	67.7	22.2	7.7	2.2					0.4



【中学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他・無回答
学校	54.2	45.8	0.0	0.0					0.0
生徒	62.4	27.8	7.6	1.9					0.4



目標提示については、教員と児童生徒との間で若干の意識のずれはあるが、概ねしっかりと行われていることがうかがえる。



授業の基本的な型はできつつある。今後は、目標設定の設定の在り方等について研究を更に深め、より効果的な目標設定を行うことが大切である。

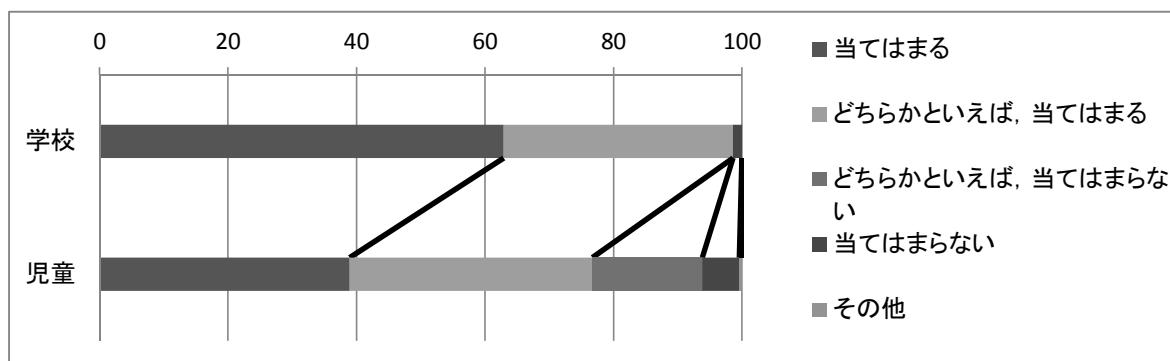
本地区の学校における授業等に関する実態

～学校質問紙調査と児童生徒質問紙調査の回答結果の比較から～

学校	授業の最後に学習したことを振り返る活動を取り入れましたか
児童生徒	授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか

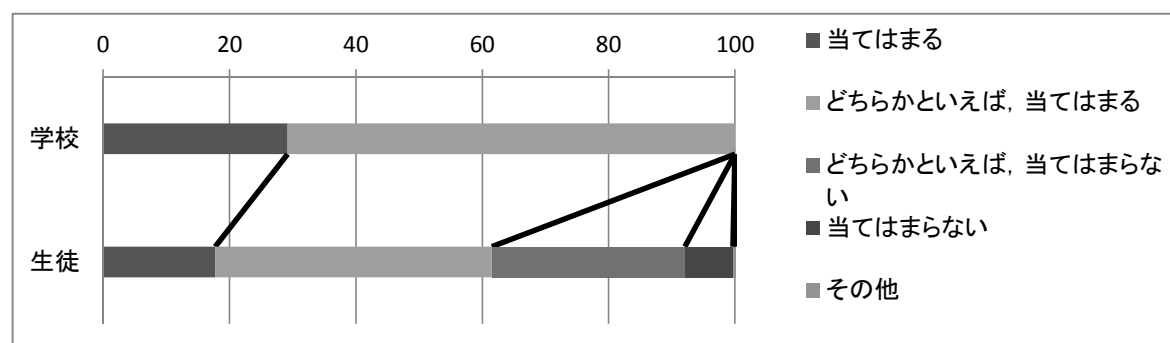
【小学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他・無回答
学校	62.9	35.7	0.0	1.4					0.0
児童	38.9	37.8	17.1	5.8					0.4



【中学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他・無回答
学校	29.2	70.8	0.0	0.0					0.0
生徒	17.7	43.8	30.6	7.6					0.4



教員と児童生徒との間での意識のずれが大きい。教員は小・中ともにほぼ100%が「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答しているが、小学校で約20%、中学校では約40%の児童生徒が、そのことを意識していない。



教員は授業のまとめを行ったと思っていても、児童生徒にはその意識がない。児童生徒が授業の振り返りを通して「今日の授業ではこれを学習した」とはっきりと自覚できるようなまとめが必要である。

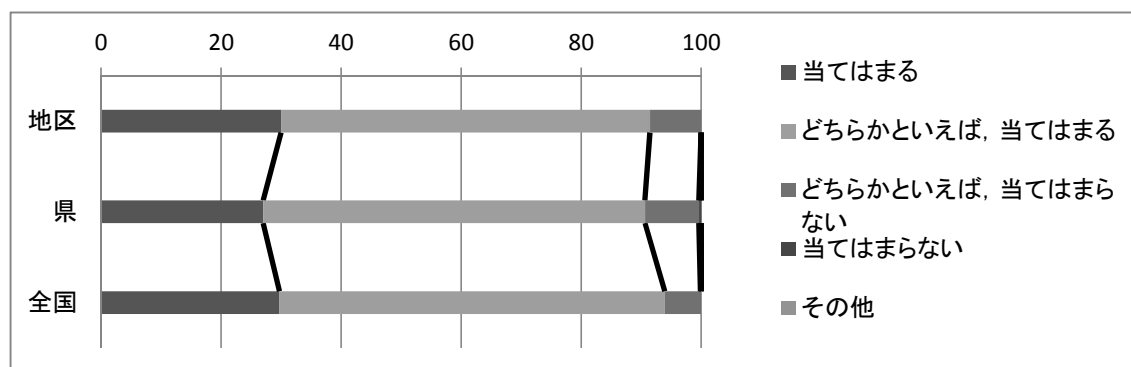
本地区の学校における授業等に関する実態

～学校質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった質問項目から～

調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか

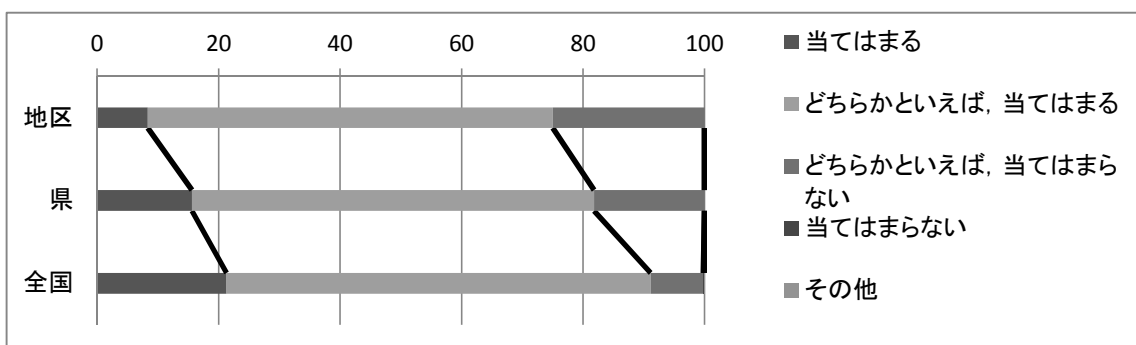
【小学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他・無回答
地区	30.0	61.4	8.6	0.0					0.0
県	27.0	63.6	9.0	0.4					0.0
全国	29.7	64.2	6.0	0.1					0.0



【中学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他・無回答
地区	8.3	66.7	25.0	0.0					0.0
県	15.6	66.2	18.2	0.0					0.0
全国	21.3	69.8	8.7	0.1					0.1



小学校では、全国・県と大きな差はないが、中学校において「当てはまる」と回答した学校が極端に少ない。



児童生徒が自ら考え活動する時間の確保と活動内容の工夫や、児童生徒の様々な意見や考えを引き出す発問や指導の在り方について、全教科で研究し、共通実践することが大切である。

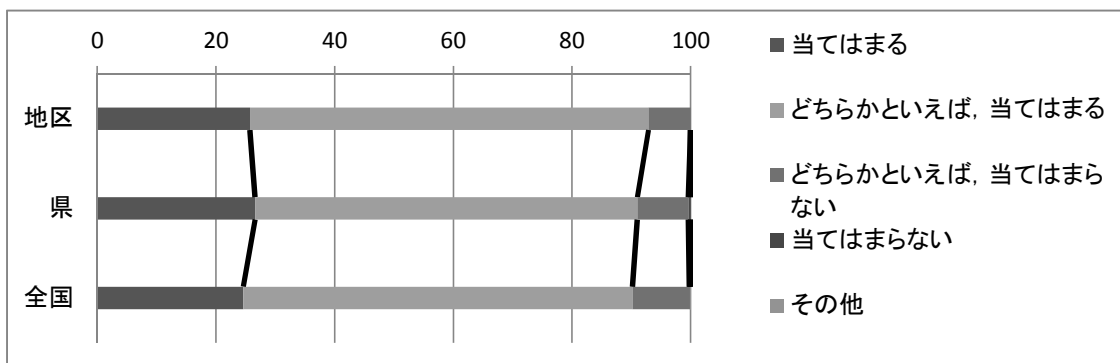
本地区の学校における授業等に関する実態

～学校質問紙回答結果において全国・県と比較して特に差が大きかった質問項目から～

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか

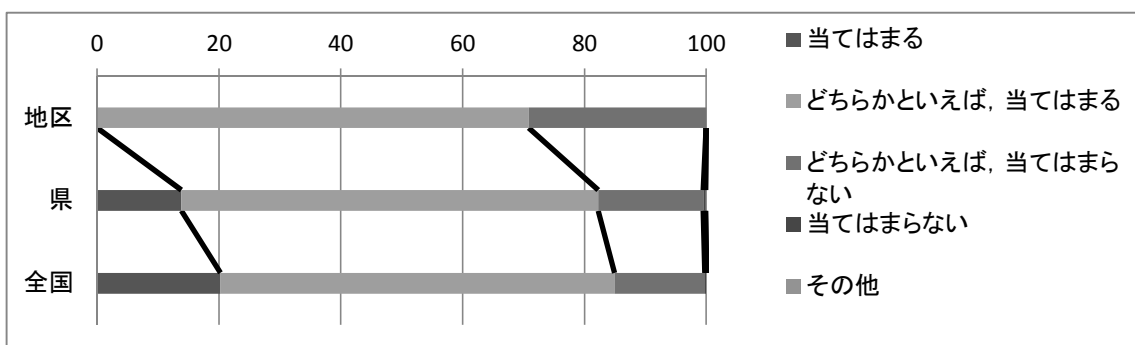
【小学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他・無回答
地区	25.7	67.1	7.1	0.0					0.0
県	26.6	64.4	8.6	0.4					0.0
全国	24.6	65.6	9.6	0.1					0.1



【中学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他・無回答
地区	0.0	70.8	29.2	0.0					0.0
県	13.8	68.4	17.3	0.4					0.0
全国	20.2	64.7	14.9	0.2					0.1



小学校では、全国・県と大きな差はないが、中学校において「当てはまる」と回答した学校は1校もなく、「どちらかといえば、当てはまる」まで含めても全国・県と比較すると大幅にその割合が少ない。



児童生徒の思考力・判断力・表現力を高める有効な手立てとして、言語活動を指導計画に位置付け、単元の中で計画的・継続的に取り入れることを全校で共通理解し、全教科等で意識的に取り組むことが大切である。

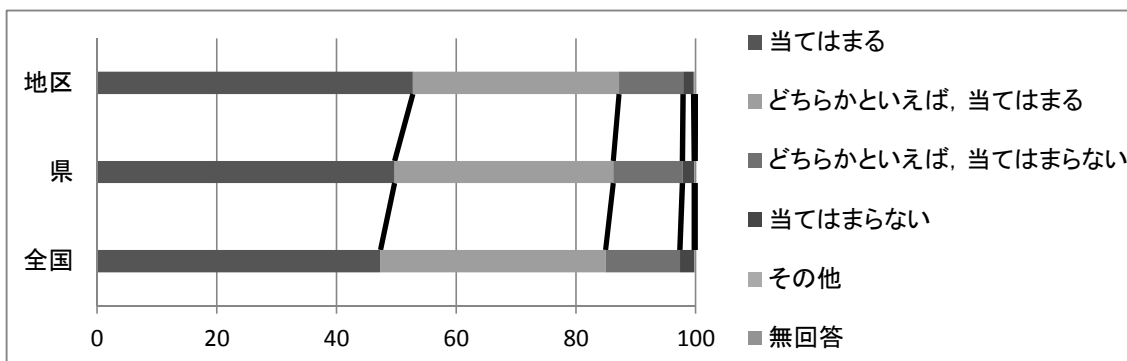
本地区の学校における授業等に関する実態

～児童生徒質問紙回答結果と学校質問紙回答結果の相関関係等から～

これまでに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか

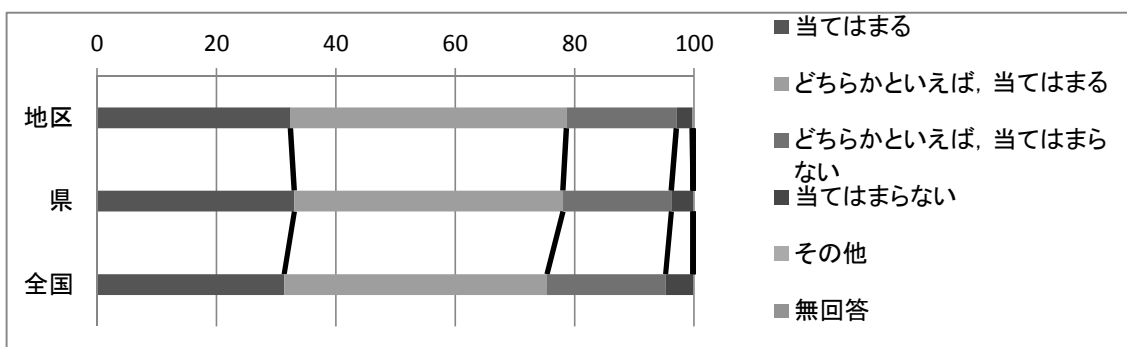
【小学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	52.7	34.4	10.8	1.8					0.3	0.0
県	49.7	36.5	11.6	2.0					0.1	0.0
全国	47.3	37.6	12.5	2.4					0.1	0.0



【中学校】

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
地区	32.4	46.2	18.5	2.7					0.0	0.3
県	33.0	45.0	18.2	3.6					0.0	0.2
全国	31.3	44.0	19.9	4.6					0.0	0.1



話し合う活動の設定については、全国との比較からも、しっかり行われていることが分かる。



にも関わらず、学力の定着が図られていないとすれば、話し合ったことが、個々の思考の深まりにつながっていない等の要因が考えられる。学校質問紙では、「児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしたか」の項目が特に中学校で極端に低い状況もある。話し合いの目的、内容等について再考し、児童生徒の多様な考えを交流し、個々の思考を深めるような効果のある話し合いの活動を行う必要がある。

かごしま学びチャレンジ推進事業の推進 ～かごしま学力向上支援Webシステム&学びの羅針盤～

かごしま学力向上支援Webシステム

コンセプト&活用のすすめ

「かごしま学力向上支援Webシステム」は、本県児童生徒の学力向上に向けた先生方の指導力の向上を支援することを目的として構築したシステムです。

このシステムを平素から活用していただき、児童生徒の学力向上に向けた授業の工夫改善に努めていただけたらと考えます。

こんなことができます！

単元・領域別評価問題・・・

思考力・判断力・表現力を問う問題をダウンロードできます。

学びの羅針盤・資料集・・・

学力向上のための指導のポイント（学びの羅針盤）を見ることができます。また、過去の調査問題のダウンロードや教育情報等を見ることができます。

分析・・・・・・・・・・・・・

単元・領域別評価問題に取り組ませた後、その結果をシステムに入力することにより、翌日には、その分析結果（正答率や度数分布等、自校、市町村、地区、県）を見ることができます。

各地区の情報・・・・・・・・・・

各教育事務所単位の取組や教育情報を見ることができます。

新着情報・・・・・・・・・・・・・

現在、アップロードしている内容や留意事項等を確認できます。

学びの羅針盤

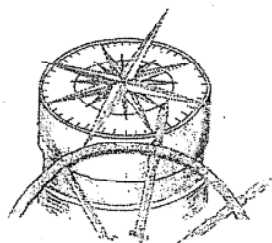
コンセプト&活用のすすめ

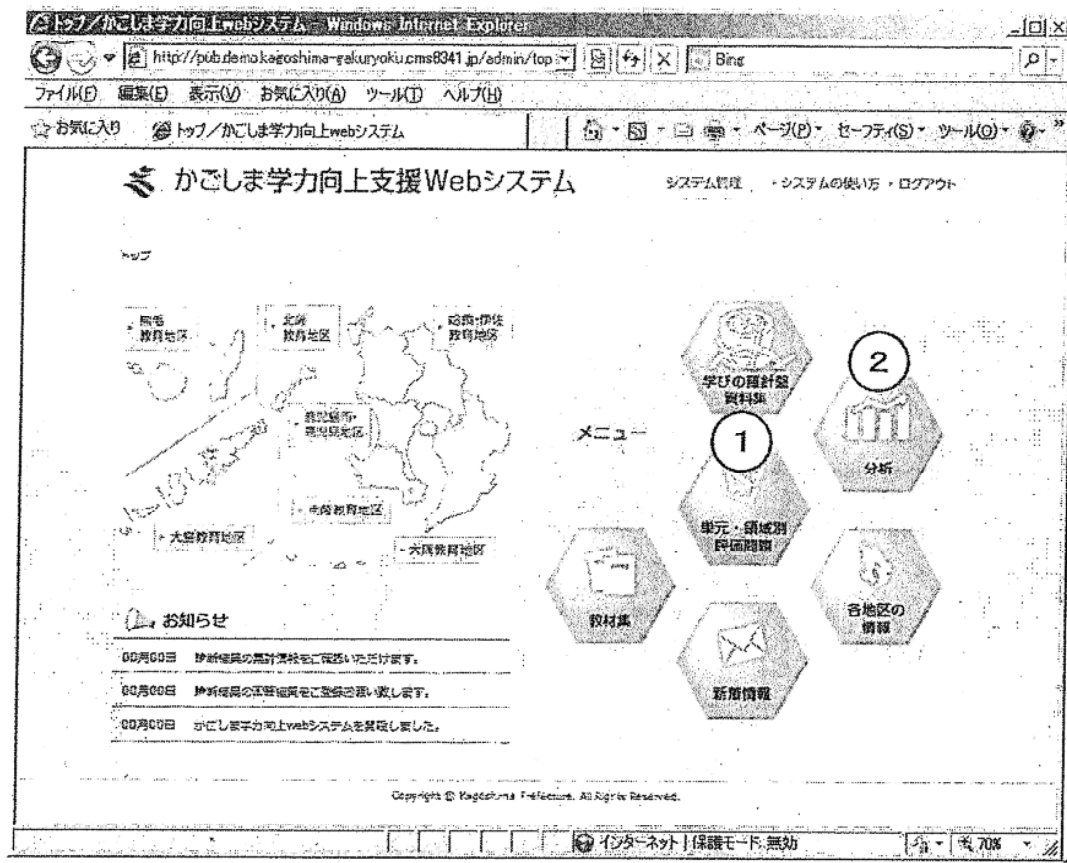
【目的】

本県の児童生徒の実態を踏まえた授業づくりのポイントや指導のポイントなどを共通の方向性として示し、授業改善に向けた先生方の取組を支援していきます。（平成27年3月配布予定）

【主な内容（予定）】

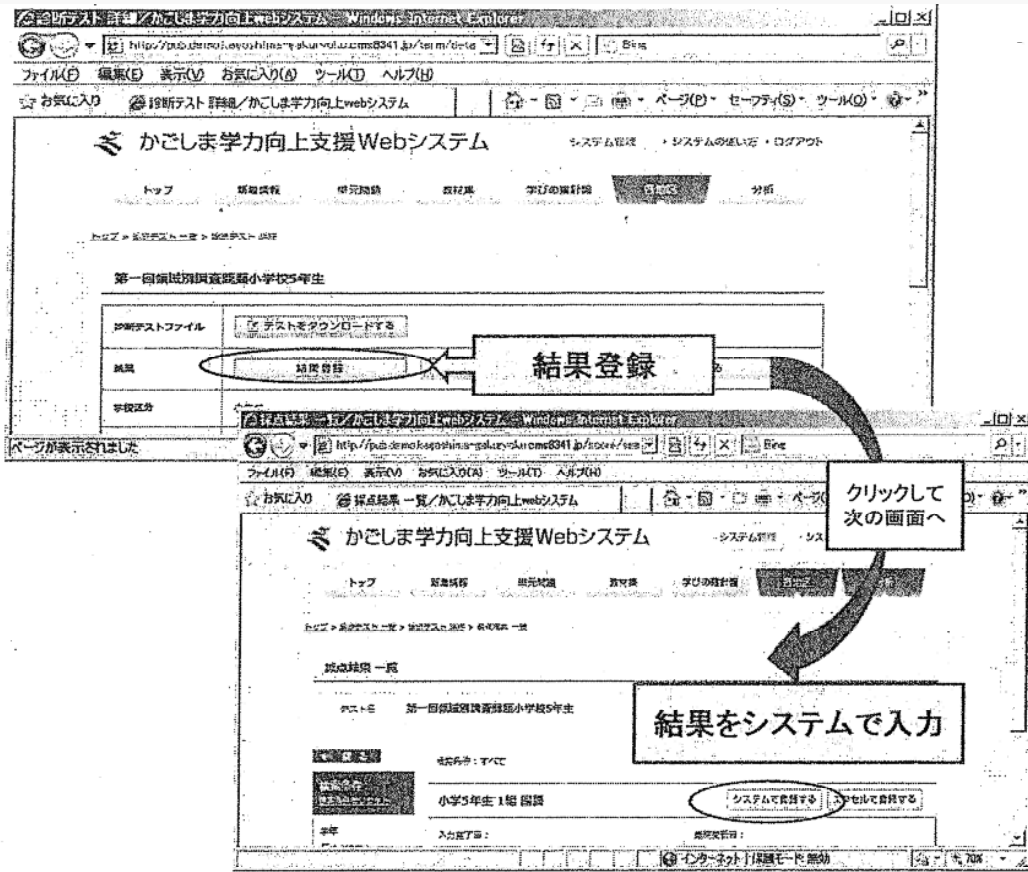
- 本県児童生徒の学力の状況
- 教科ごとの分析
- 各教科指導の重点
- 授業の工夫改善
- 学力向上に向けた取組
- 一層の学校教育の充実を目指して

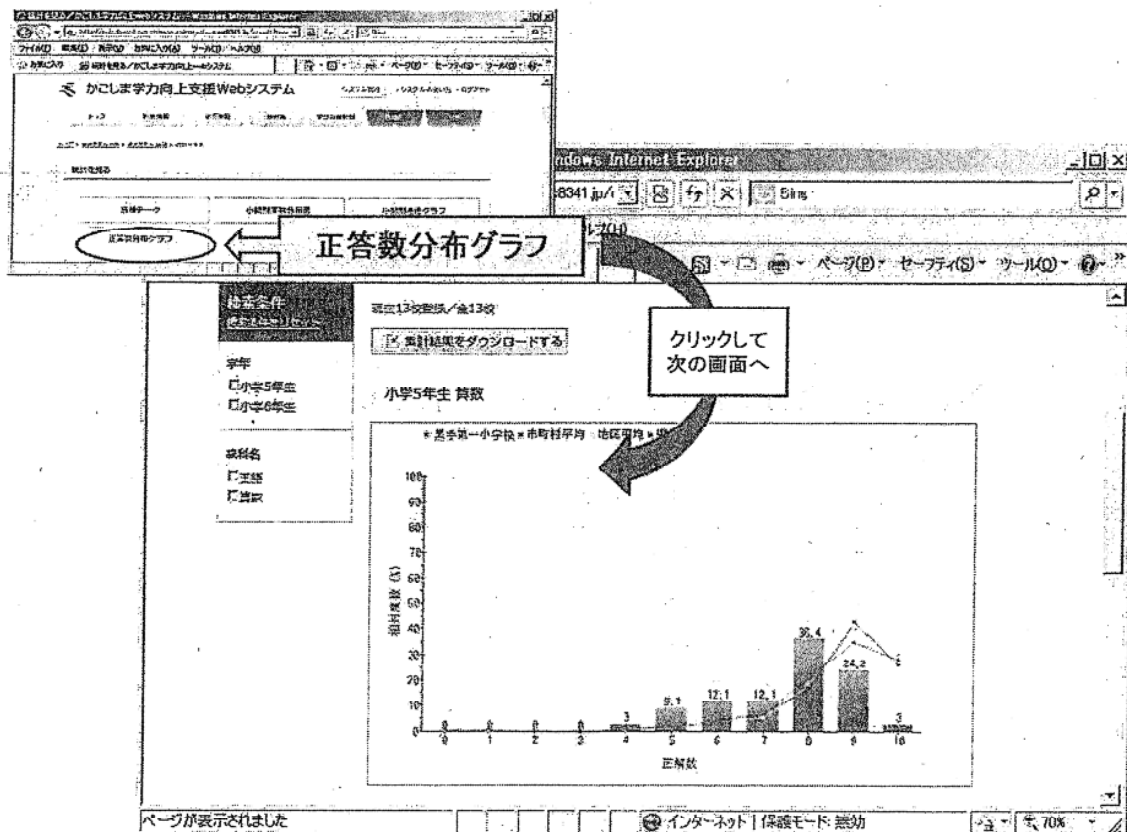
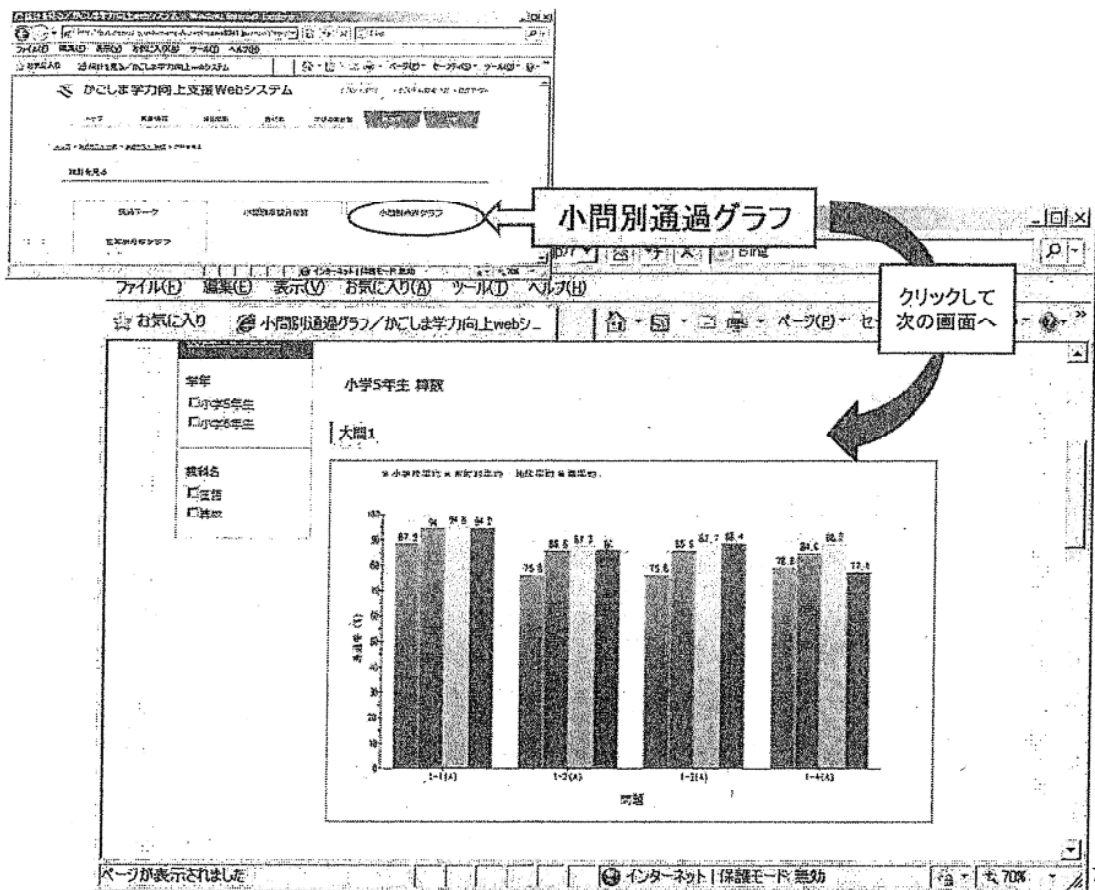




1 評価問題のダウンロード







平成26年度始良・伊佐地区教科研究会実施状況及び計画

実施日時 実施場所	主 内 容	作成・準備計画	
		指導案集	模擬授業
6月24日(火) 14:00~16:45 始良・伊佐 地域振興局	【第1回教科研究会】 1 全体会 (1) 所長あいさつ及び講話 (2) 事業概要の説明・計画等の確認 2 教科等別分科会 (1) 研究の進め方の共通理解 ※ 始良・伊佐スタディーサポートの指導事例等を基に、授業改善のポイントを整理する。 (2) 個人課題の決定 ※ 指導案を作成する単元等を個別に決定する。 (3) 共通課題の検討 ※ 始良・伊佐スタディーサポートのワークシートや学習課題を活用した授業プランを立てる。 (4) 次回の日程と内容の確認 ※ 第2回教科研究会に作成した指導案を持参する。	6/24 ↓ 単元決定・作成期間	6/24 ↓ 単元等検討期間
8月8日(金) 10:00~16:45 溝辺公民館 (みそめ館)	【第2回教科研究会】 1 教科等別分科会 (1) 個人課題の研究 ア 作成した指導案の紹介 イ 指導案の検討 (2) 共通課題についての研究 ア 単元・題材の決定 イ 教材研究(学習の系統性、指導法改善等) ウ 役割分担 2 小中合同協議 (1) 個人課題・共通課題についての情報交換 (2) 次回の日程と内容の確認 ※ 第3回教科研究会には、分担された役割によって、資料等を持参する。(個人が作成した指導案は、修正し、顧問教頭に提出する。)	8/8 ↓ 意見交換・修正期間 9/30 提出(各顧問へ) ↓ 10/10 (事務所へ)	8/8 ↓ 単元決定 役割分担 ↓ 授業プラン作成及び諸準備期間
11月18日(火) 14:00~16:45 始良・伊佐 地域振興局	【第3回教科研究会】 1 教科等別分科会 (1) 個人課題のまとめ (2) 共通課題についての研究 ア 始良・伊佐スキルアップセミナー Part2 に向けての準備 イ 授業モデルの構築(教材化した資料の整理) 2 全体会 (1) 進捗状況の確認 (2) 次回の日程と内容の確認	11/18 ↓ 12/19 (事務所へ①)	11/18 ・授業プラン検討 ・研究内容の整理 ↓ 修正・準備期間
1月23日(金) 14:00~16:45 国分シビック センター	【始良・伊佐スキルアップセミナーPart2】 1 全体会 ・ 所長あいさつ 2 教科等別分科会 (1) 模擬授業 (2) 質疑応答・意見交換 (3) 研究の成果と課題 (4) 指導・助言	1/23 ↓ 2/20 (事務所へ②)	1/23 ↓ 授業実施 ↓ 意見集約・内容整理
○指導案集 ○模擬授業(研究の経過と当日の内容)		実践研究・事例集として製本予定	